

# 八女市立図書館本館整備基本計画（素案）



# 目次

---

1	本計画の位置づけと基本方針.....	1
1-1	本計画及びまちづくりにおける図書館整備の位置づけ.....	1
1-1-1	第5次八女市総合計画.....	1
1-1-2	第2次八女市教育大綱（令和3年度～令和7年度）.....	4
1-1-3	第2次八女市社会教育計画（令和3年度～令和8年度）.....	5
1-1-4	第4次八女市子どもの読書活動推進計画（令和4年度～令和8年度）.....	6
1-1-5	持続可能な開発目標（SDGs）への対応.....	7
1-2	上位計画を踏まえた図書館整備の基本方針.....	9
2	前提条件の整理.....	11
2-1	八女市の概況と特色.....	11
2-1-1	八女市の概況.....	11
2-1-2	八女市の特色.....	12
2-2	市立図書館及び本館の現状.....	14
2-2-1	市立図書館の概要.....	14
2-2-2	本館施設の概要.....	15
2-2-3	サービス.....	16
2-2-4	利用状況.....	18
2-2-5	移動図書館.....	24
2-2-6	蔵書構成と蔵書数推移.....	26
2-3	他自治体等との比較.....	29
2-3-1	図書館の設置及び運営上の望ましい基準との比較.....	29
2-3-2	同規模自治体との比較.....	29
2-3-3	県内他市との比較.....	31
2-3-4	同規模面積自治体との比較.....	33
2-3-5	先進的な図書館事例.....	35
2-4	課題整理.....	38
3	市民の意見聴取.....	40
3-1	市民アンケート.....	40
3-2	図書館司書アンケート.....	42
3-3	市民ワークショップ.....	43
3-4	市民意見のまとめ.....	44
3-4-1	考察.....	44
3-4-2	サービスアイデアの分類.....	45

4	図書館本館のコンセプト	46
4-1	ここまでの整理とコンセプトの位置づけ	46
4-1-1	本計画の位置づけと基本方針について	46
4-1-2	前提条件と課題	46
4-1-3	アンケート、ワークショップでの論点整理と考察	47
4-1-4	コンセプトの果たす役割	48
4-2	八女市立図書館本館のコンセプト	49
4-2-1	八女市の新たな可能性を育てる「居場所」	49
4-2-2	みんなが主体者として「共に育む」場	49
4-2-3	「くらし」を豊かにする図書館	50
5	サービス構想	52
5-1	サービス内容の検討	52
5-1-1	サービスの基本的な考え方	52
5-1-2	検討すべきサービス内容の考案	53
5-1-3	サービスの全体像	61
5-2	蔵書計画	63
5-2-1	蔵書目標	63
5-2-2	開架率	63
5-2-3	児童書割合	64
6	施設整備計画	66
6-1	施設規模目標	66
6-1-1	必要な諸室・スペース	66
6-1-2	施設規模目標	69
6-2	整備実現上の改修・移転について	70
6-2-1	前提条件	70
6-2-2	比較	71
7	管理運営計画	73
7-1	開館時間・休館日	73
7-2	管理運営体制	73
8	事業計画	75
8-1	概算事業費	75
8-2	事業スケジュール	76
	巻末資料 市民アンケート調査結果	78

# 1 本計画の位置づけと基本方針

## 1-1 本計画及びまちづくりにおける図書館整備の位置づけ

この計画は、八女市立図書館本館整備を見据えて、中長期的な八女市立図書館本館のあるべき姿を示すことを主眼としています。よって、令和3年に策定した「第5次八女市総合計画」に基づいた計画として位置づけられます。また、その他の関連する計画として、同じく令和3年に策定した「第2次八女市教育大綱」なども踏まえ、八女市の施策推進に資する図書館サービスの提供について、その方向性の整理を行います。その他、文化・福祉・まちづくりといった各分野の計画との連携も考慮します。

また、子どもたちへのサービスについては、令和4年に策定の「第4次八女市子どもの読書活動推進計画」の内容を基に、取組を計画します。

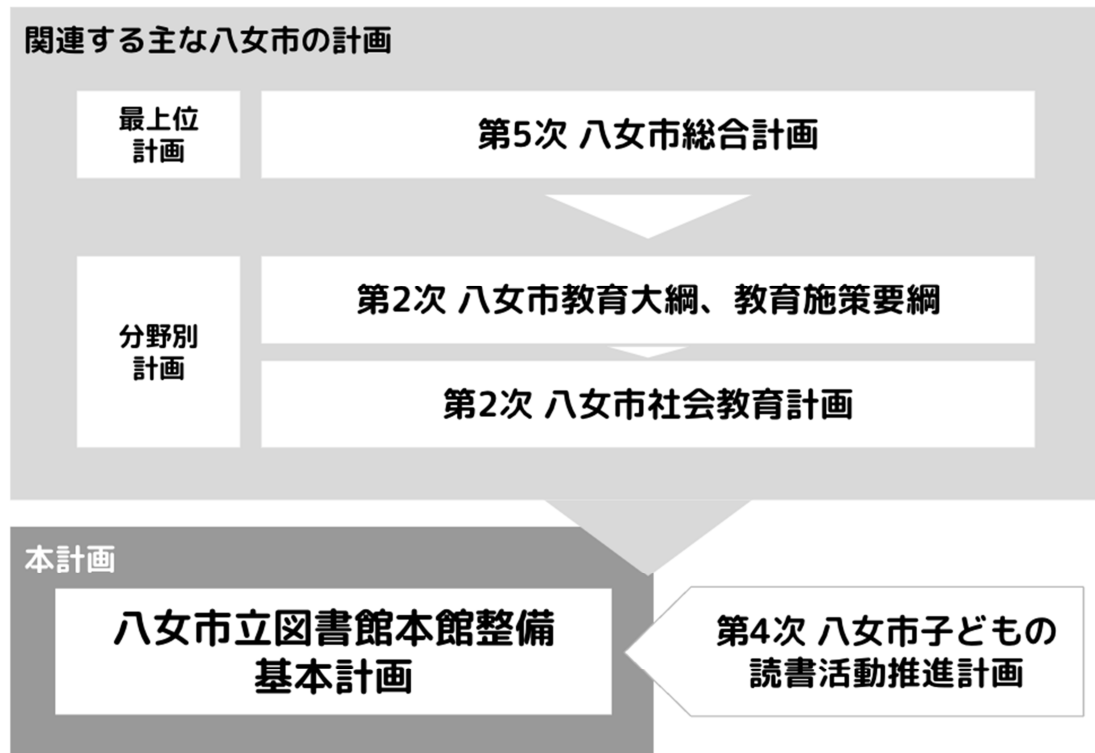


図 1 本計画の位置づけ

### 1-1-1 第5次八女市総合計画

八女市では、令和3年度～令和12年度（前期基本計画 令和3年度～令和7年度）の「第5次八女市総合計画」において、市の将来像を「ふるさとの恵みと誇りを未来につな

ぐ「安心と成長のまち 八女」とし、8つの基本政策を定め、それぞれに複数のまちづくり分野を紐づけて方針設定、目標管理を行っています。

(1) 基本政策⑥「ふるさとを愛する人づくり」について

本計画に特に大きく図書館が関わる基本政策としては、⑥「ふるさとを愛する人づくり」を定めています。



図 2 第5次総合計画のまちづくり体系より

この基本政策「ふるさとを愛する人づくり」の中にあるまちづくり分野の1つである「生涯学習活動の推進」に関わる現状と課題を次の3点に整理しています。

#### 【現状と課題】

- 市民を取り巻く環境がより多様化、複雑化し、人生100年時代といわれる長寿寿命化の中、市民一人一人がより豊かな人生を送るためには、市民が主体的に学びかつその成果を活かすことが必要です。
- これまで公民館を中心に様々な学習機会の提供と情報発信を行ってきましたが、市民の関心も多様化する中、参加者の固定化や学びから地域活動への展開が不十分となっています。
- 今後は、市民のニーズに対応しながら生涯学習の機会を提供するとともに、学びの成果を地域の活動に活かせるようなしくみをつくり、生涯学習社会を実現することが必要です。

その上でこれらの点を踏まえた基本的な方向性を、次のようにまとめています。

#### 【基本的な方向性】

- 市民が主体的に学び、社会参加のきっかけとなるような取組を進め、生涯学習の推進と地域活動の活性化を図ります。
- 子どもの豊かな人間性や社会性を育む体験活動を推進し、次世代を担う青少年の人材育成に取り組みます。

上記の方向性の中で、基本目標「生涯学習活動の推進」に関わる主要な取組では、図書館のあり方についても言及しており、構想上の重要な軸の1つになると考えます。

#### 【主要な取組】（一部抜粋）

- 読書活動の推進  
生活を豊かにする企画や図書館ボランティア等との協働活動を通し、市民に親しまれる図書館づくりを目指すとともに、子どもの読書活動を推進するため、子どもと本の様々な出会いの場を提供します。
- 情報提供の充実  
図書館は、生涯学習の拠点、情報発信の場として、市民のニーズに応じて資料や情報を計画的かつ積極的に収集し提供します。また、レファレンスサービスやWebサービスの充実に向け取り組みます。より多くの市民が図書館を利用できるよう、移動図書館の拠点整備を進めます。

これらの取組を踏まえた目標指標としては、図書館の利用割合（利用登録者数/市の人口）を令和元年20.5%から、令和7年23.0%にする目標値を設定しています。

また、同じく基本政策「ふるさとを愛する人づくり」のまちづくり分野である「歴史・文化」においては、ビジョンとして「歴史と伝統に育まれた“八女文化”が活きるまちをつくる」を掲げています。

その基本的な方向性として次の3点がまとめられており、未来に継いでいくべき深い歴史・伝統的な背景を持ち、直木賞作家や文化勲章受章者を多く輩出している八女市の図書館を構想する上での重点になると考えます。

#### 【基本的な方向性】

- 筑紫君磐井と八女古墳群及び南北朝時代等の歴史的文化遺産を保存しながら活用します。
- 地域の伝統行事や伝統芸能の後継者を育成し、保存・継承します。
- 市民の文化・芸術団体の育成・支援を進めていくとともに、芸術文化振興事業を推進します。

### (2) その他の基本政策で関連するまちづくり分野について

- ・ 基本政策⑦「人権を尊重した共生のまちづくり」より「地域コミュニティ」  
「活気ある地域コミュニティを基盤とした持続可能なまちをつくる」というビジョンを掲げた上で、基本目標として「持続可能な地域コミュニティの育成」がまとめられており、図書館という地域拠点の1つの役割としての関連が考えられます。
- ・ 基本政策⑧「未来につなぐ協働のまちづくり」より「協働・情報」  
「市民が主役となって活躍するまちをつくる」というビジョンを掲げた上で、基本目標として「市民との協働の推進」がまとめられており、明治36年（1903年）に地域の篤志家により建設された公共性の強い歴史を持つ八女市の図書館として、関連性の高い要素になると考えられます。

### 1-1-2 第2次八女市教育大綱（令和3年度～令和7年度）

「第2次八女市教育大綱」は「第5次八女市総合計画」の基本政策を踏まえ、「ふるさとを愛する人づくり」を教育分野の基本目標に、八女市の教育課題に効果的かつ重点的に取り組むことを目指して、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策を定めたものです。

基本的に「第5次八女市総合計画」に準じた内容となっており、図書館については「生涯学習活動の推進」における重点課題として、次のように記載しています。



市立図書館は、生涯学習の拠点として、市民のニーズに応じた資料や情報を計画的かつ積極的に収集・提供し、親しみやすく利用しやすい図書館を目指します。また、移動図書館の拠点整備を進め、市全域での読書環境の向上に努めます。

子どもの読書活動推進については、子どもと本の出会いの場を提供し、継続した読書習慣の育成に取り組んでいきます。また、図書館ボランティアを通じた市民参画を推進し、市民との協働による図書館づくりを進めます。(一部抜粋)

### 1-1-3 第2次八女市社会教育計画（令和3年度～令和8年度）

「第2次八女市社会教育計画」は「第5次八女市総合計画」の社会教育分野の個別計画として位置づけ、「第2次八女市教育大綱」等との整合を図り、社会教育の推進に関する具体的な施策を示すものです。全体の体系から関係する部分は次の通りです。

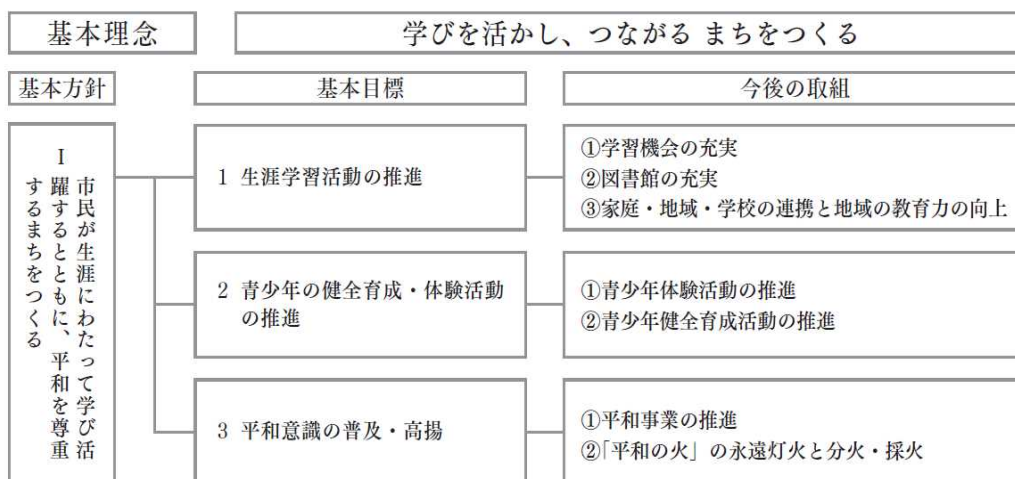


図 3 社会教育計画基本理念と基本方針の体系図より（抜粋）

図書館に関する今後の取組は、I-1②「図書館の充実」として位置づけられて、取組内容としては4つの主な事業を中心として、下記のように構成されています。

図書館は、生涯学習の拠点として、市民のニーズに応じた資料や情報を計画的かつ積極的に収集・提供し、親しみやすく利用しやすい図書館を目指します。また、移動図書館の拠点整備を進め、全市域での読書環境の向上に努めます。

「八女市子どもの読書活動推進計画」に基づき、子どもと本の出会いの場を提供し、継続した読書習慣の育成に取り組んでいきます。また、図書館ボランティアを通じた市民参画を推進し、市民との協働による図書館づくりを進めます。

**表 1 主な事業**

事業名	事業概要
図書資料情報提供	地域の特性や市民ニーズを考慮した資料を収集、整理し提供する。また、Webサービスの充実に取り組みます。
子どもの読書推進事業	「八女市子どもの読書活動推進計画」に基づき、子どもが読書習慣を身につけるよう、段階的、定期的な取組を行います。
図書館ボランティアとの協働による図書館づくり	図書館ボランティアの活動を通じた市民参画を推進し、市民との協働による図書館づくりを進めます。
移動図書館の拠点整備等	移動図書館の拠点整備を進めることで、多くの市民に本が届くようサービスの充実を図ります。

**表 2 評価指標**

指標	現状値（令和元年度）	目標値（令和8年度）
市民一人当たりの年間貸出冊数	3.0冊	3.6冊

#### 1-1-4 第4次八女市子どもの読書活動推進計画（令和4年度～令和8年度）

「第4次八女市子どもの読書活動推進計画」は、子ども読書推進のために地域、家庭、学校、市立図書館などが主体的に連携することの必要性や、それぞれの主体がどのように読書活動を推進するかをまとめています。

特に市立図書館における読書活動の推進については、次の7点に整理しています。

#### ①多くの人に来館していただくために

市立図書館を利用したことがない子どもや保護者などの来館を促すために、子ども読書週間、夏休み期間を活用した取組や趣向を凝らしたイベントの実施、定期的を実施しているおはなし会などの工夫を行います。また、来館し図書を借りたくなるような施設整備面、運営面について検討し、魅力ある図書館づくりに努めます。

#### ②「読書バリアフリー」の推進

令和元年6月に「読書バリアフリー法」が成立しました。特別な支援を要する子どもを含め、すべての人が読書に親しむことができるよう、「読書のバリアフリー」を推進します。

マルチメディアデイジー図書やLLブックなどのアクセシブルな書籍の充実、外国語の本の収集、誰もが気軽に利用できるための支援の充実などに努めます。

#### ③電子図書館サービスの導入・充実

新型コロナウイルス感染防止のための外出抑制や仕事及び学業などで日中の来館が困難な方、GIGAスクール構想の推進のため、電子図書館サービスを導入します。特別な支援を要する子どもを含め、子ども向けの書籍の充実、幼稚園・保育所（園）・学校との連携などの取組を行うことで、子ども読書活動推進に努めます。

#### ④市立図書館本館と5つの分館との連携

月1回の定例会議を中心に、子どもの読書状況や幼稚園・保育所（園）・学校との連携状況などについて共通理解を図り、実施すべきことを明確にしながら、相互に連携・協力し、子ども読書活動推進を図ります。

#### ⑤高等学校・中等教育学校との連携

市内の高等学校などに出向き、子どもの読書活動について情報交換、意見交換を積極的に進めます。「〇〇学校生徒のおすすめ本」の紹介やおはなし会などへの参加、貸出文庫の利用などにより、読書活動の推進につなげます。

#### ⑥移動図書館「ゆめみらい号」「はしるゆめのぶっくらんど号」「ほんの森ぶっくるん号」の有効活用

幼稚園・保育所（園）・学校などに対して、移動図書館サービスを効果的に運用することにより、読書の機会の拡充を図ります。

#### ⑦読書ボランティアなどの育成・支援

学校、地域、市立図書館などで活動している読書ボランティアなどを育成・支援するため、研修会や情報交換などを実施します。また、図書館職員の資質・能力向上に努めます。

### 1-1-5 持続可能な開発目標（SDGs）への対応

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、平成27年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された平

成 28 年から令和 12 年までの国際目標です。持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するため貧困、飢餓、教育、雇用、環境など 17 のゴールから構成され、地球上の「誰一人として取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。

国は、平成 28 年に「持続可能な開発の目標 (SDGs) 実施指針」を策定し、「持続可能で、強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」というビジョンを掲げており、本計画においてもこの取組目標を踏まえた事業の展開が求められます。

本計画と特に関連度の高いゴールについては、ゴール 16「平和と公正をすべての人に」の中の「情報への公共アクセスを確保し、基本的自由を保障する」や、学校教育や生涯教育の観点では、ゴール 4「質の高い教育をみんなに」などが想定されますが、図書館の役割はそこだけにとどまらず、まちづくりの推進の中で 17 すべてのゴールに対して様々に関連すると考えられます。

## 1-2 上位計画を踏まえた図書館整備の基本方針

ここまでの「第5次八女市総合計画」などによるまちづくりの方向性を踏まえ、山里と都市が循環的に共生し、自然資源と多様な文化・歴史を持つ八女市の環境の中で、毎日繰り返されている市民の暮らしに寄り添い、それらをより豊かにする役割を図書館は担いたいと考えています。

たとえ小さくても図書館で生まれる発見や達成感、解決のよろこびが市民の暮らしをさらに豊かにしていくと考えます。この「暮らしを豊かにする図書館づくり」が本図書館整備の大きな方針となります。この大方針をベースとして、取組の方向を次のようにとりまとめ、図書館整備の基本方針とします。

### ①「へえ〜、そうなんだ！」を増やそう

「人生百年時代」とよばれる長寿命社会において、市民のひとりひとりが満足感のある人生を送るためには生涯学習の充実が必要です。細分化、多様化された価値観に対応して暮らしのさまざまな分野をテーマとした多彩なプログラムを提供することで市民の暮らしの質を高めます。

### ②「どうも、ありがとう！」を増やそう

人口減少、高齢化傾向にある八女市の将来の財政状況を考えると、市民も利用者としてだけでなく図書館の運営に市民も参画し“自分のまちの図書館”として関わり続ける仕組みが必要です。市民も自分の経験や特技、趣味などを図書館のプログラムに活用するなどの役割を担うことで主体的で張りのある暮らしになります。

### ③「なんか、面白そう！」を増やそう

子どもたちを取り巻くメディアが多様化するなかで、じっくりと時間をかけて自分自身との対話を重ねながら、新たな言葉や知識、考え方と出会う読書は子どもたちの成長に不可欠なものです。読書を習慣化させ、好奇心を刺激して学びの喜びを体感させる場所をつくることで、将来の大きな夢や希望を育てます。

### ④「いや〜、助かった！」を増やそう

就職や仕事、家事、健康、人間関係など身の回りの課題を解決するために知識や情報は大変役に立つものです。特に、人的なサービスが乏しい地方部においては図書館が提供する確なレファレンスサービスや web サービスが大きな役割を果たします。図書館は暮らしの悩みや不安、不便を解消し、夢や希望を叶えます。

### ⑤「まちの記録」を増やそう

漠然と過ぎているように感じる時間であっても、私たちが暮らす“まち”はあちこちにその記録を残しています。かつては一方通行であった情報が、双方向になり市民も情報提供者となり得る状況です。社会的な大きな出来事だけでなく、まちかどの小さな出来事や面白い人物などもまちの記録として未来に伝えます。

#### ⑥「はぁー、ほっとする！」を増やそう

これまでの図書館といえば、静まり返った館内で読書好きが本とにらめっこしているイメージが強いと思います。もちろん、読書をするのに最低限の環境は必要ですが、図書館が本だけでなく顔馴染みの仲間と会えたり、家庭とは別のもうひとつの心落ち着く居場所として市民のくらしに憩いを与える存在になりたいと思います。

これら方針、取組の方向も踏まえ、八女市のくらしを豊かにしていくために、八女市民に向けて様々な体験の機会を提供し、八女市のまちづくりのために市民が主体的に関わることもできる公共の場であることを、図書館の目指すべき基本的な位置づけとして捉えたいと考えます。

## 2 前提条件の整理

---

### 2-1 八女市の概況と特色

#### 2-1-1 八女市の概況

##### (1) 地理的特性

八女市は、福岡県の南部、福岡市から南へ約 50km に位置し、北は久留米市、広川町、うきは市、西は筑後市、みやま市、南は熊本県、東は大分県に接しています。

平成 18 年 10 月 1 日に上陽町、さらに平成 22 年 2 月 1 日には黒木町、立花町、矢部村、星野村と合併しました。平成 22 年の合併後、面積は 482.44 km<sup>2</sup>となり、北九州市に次ぐ県内 2 位の広大な面積を有し、その内、森林が約 65%を占めています。

##### (2) 道路・交通・情報通信特性

市内の主要道路としては、国道 3 号が南北、国道 442 号が東西に走り、九州自動車道が西側を縦断し、八女インターチェンジを介して市街地に接続しています。市内の交通機関は、市が運営する予約型乗合タクシー「ふる里タクシー」のほか、西鉄バス・堀川バスの民間 2 社が路線バスを運行しています。この路線バスと鉄道の乗り継ぎや、高速バスを利用して福岡市や福岡空港をはじめ、各方面にもアクセスが可能です。

情報通信環境は、地域情報通信基盤整備交付金（ICT 交付金）を活用し、概ね市内全域で光ファイバー設備が整備されています。

また、平成 24 年度には、コミュニティ FM 放送「FM 八女」の開局とともに防災ラジオを全戸配付し、市民生活に不可欠な生活情報、行政情報、気象情報、交通情報、観光イベント情報などの伝達手段の確保を図っています。

##### (3) 人口動態特性

人口は減少傾向で、少子高齢化が進行しています。

###### ① 総人口と世帯数

国勢調査による八女市の総人口は、調査年ごとに減少し、令和 2 年には 60,608 人、昭和 60 年の 71%となっています。

1 世帯当たり人員については昭和 60 年の 4.0 人が令和 2 年には 2.7 人となっています。

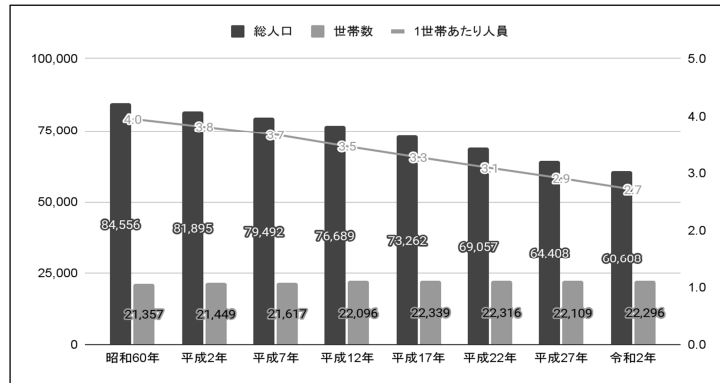


図 4 人口・世帯数の推移

出典：国勢調査

## ② 年齢3区分別人口

老年人口割合が昭和60年の15%から令和2年には36%と35年間で21ポイント増加している一方で、年少人口割合は21%から12%と9ポイント減少しています。

生産年齢人口100人が、年少人口と老年人口を何人支えているかを示す比率である従属人口指数は、昭和60年の56から令和2年には94まで増加しており、特に直近の平成27年から令和2年の増加が顕著です。

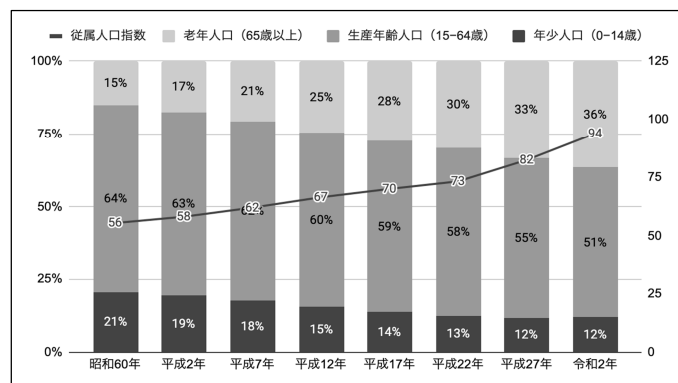


図 5 年齢3区分人口構造と従属人口指数の推移

出典：国勢調査

## 2-1-2 八女市の特色

### (1) 自然豊かな交流都市

豊かな森林や一級河川の矢部川をはじめとする大小の河川、丘陵地帯にはたくさんの茶畑があり、豊かな自然環境・農村環境に囲まれています。九州オルレ八女コースも設定されており、季節ごとに美しい彩りを魅せる花々、深い緑と川の蒼さに癒やされる溪谷美、福岡県の「山どころ」とも呼ばれる山など、四季折々、訪れるごとに魅力を再発見できます。



市内には、こうした豊かな地域の資源を活かした様々な交流施設が整備されており、潤いと癒しある自然空間を求める都市住民との多彩な交流が行われる地域です。

## (2) 歴史・文化

岩戸山古墳に代表される古墳群をはじめ、八女津媛神社、大円寺、松尾弁財天、五條家御旗祭など先人たちの営みが今に息づく数多くの歴史遺産や伝統的な祭りが存在しています。

市内には、江戸期以来の町並みの街路構成とともに多くの建築物が残され、当時の町並みの景観を色濃くとどめる八女福島重要伝統的建造物群保存地区（平成 14 年選定）と近世後期以降居蔵造の重厚な町家が残り、矢部川の堰や町中を流れる水路など水利にまつわる歴史的風致を残している黒木重要伝統的建造物群保存地区（平成 21 年選定）があります。また、江戸時代、八女福島は久留米から黒木を経て豊後へ抜ける豊後別街道に沿った在方町として発展し、俳句や工芸、燈籠人形など多様な文化が生まれ、華々しく栄えてきた一方、明治時代以降は、多くの文化人を輩出してきたことも八女の魅力です。

## (3) 農産物

八女市は、県内有数の生産量、種類の多さ、高い品質を誇る農産物の一大産地です。全国ブランドとして確立されている八女茶をはじめ、電照菊等の花き、ブドウ、ナシ等の果樹、イチゴ、ナス等の野菜の主力産品を中心に、地域の特性にあった付加価値の高い様々な農産物が生産されています。

## (4) 伝統産業

幾多の恵みをもたらしてきた清流と大地。そこから多彩な伝統工芸が生まれ、引き継がれ、「八女福島仏壇」「八女提灯」「八女手すき和紙」「八女石灯ろう」など今も伝統工芸の技が息づき、職人の手によって受け継がれています。

## 2-2 市立図書館及び本館の現状

### 2-2-1 市立図書館の概要

図書館は旧八女市に本館、旧町村に1館ずつ分館を配置しており、広い市域に複数の分館を持つことでサービスネットワークを構築しています。

八女市立図書館は、明治38年に「八女郡図書館」として開館した歴史ある図書館です。本館の2階には坂本繁二郎資料室、山本健吉資料室があり、地域ゆかりの人物に関わる貴重な資料を保管、公開しながら、地域の歴史を継承する役割を担っています。

市全域の図書館サービスとしては、移動図書館を3台で運用しています。また、令和4年3月に電子図書館サービスを開始し、来館が困難な方への資料提供やGIGAスクール構想推進にも努めています。

本館の運営はカウンター業務を「NPO まなびっと八媛」に委託しており、分館は会計年度任用職員1～2名で運営しています。とくに本館では意欲的にイベントを実施し、館内の複数箇所では本を手に取りたくなるような企画展示も行うなど、市民が利用したくなる図書館づくりを行っています。

表 3 市立図書館の概要

施設名	本館	上陽分館	黒木分館
延床面積	1,277.00 m <sup>2</sup>	100.00 m <sup>2</sup>	258.00 m <sup>2</sup>
蔵書数	105,270 冊	14,026 冊	39,966 冊
開館日数（年間）	278 日	278 日	282 日
開館時間	火～金 10～20 時 土日祝 10～18 時	9 時～17 時 30 分	9 時～17 時 30 分
休館日	毎週月曜日	月曜日及び祝日	火曜日及び月曜日以外の祝日
職員数	正規職員 3 名、会計年度 任用職員 2 名（館長、臨 時職員） NPO まなびっと八媛職 員 7 名、事務局長 1 名 （週 2 日勤務）	会計年度任用職員 1 名	会計年度任用職員 2 名

施設名	立花分館	矢部分館	星野分館
延床面積	133.00 m <sup>2</sup>	216.40 m <sup>2</sup>	277.24 m <sup>2</sup>
蔵書数	19,765 冊	10,024 冊	18,225 冊
開館日数（年間）	279 日	278 日	279 日
開館時間	9 時～17 時 30 分	9 時～17 時 30 分	9 時～17 時 30 分
休館日	月曜日及び祝日	月曜日及び祝日	月曜日及び祝日
職員数	会計年度任用職員 2 名 （うち 1 名は BM 運転 担当）	会計年度任用職員 1 名	会計年度任用職員 1 名

※毎月最終金曜日は特別休館日（館内整理日）

※蔵書数及び貸出冊数には雑誌、視聴覚資料を含まない

## 2-2-2 本館施設の概要

本館施設は昭和 59 年に竣工し、昭和 60 年に供用を開始しました。築 37 年が経過しており、建物の老朽化も進んでいます。

諸室構成は、一般開架スペースや児童開架スペース、視聴覚コーナーなどが 1 階にまとまって配置されており、2 階に研修室や資料室があります。1 階と 2 階で明確に機能が分かれ、来館目的に応じたフロア構成になっていますが、本を借りに来た人が偶然資料室を訪れるなどの相互利用は生まれにくい配置になっています。また、館内には閲覧席や学習席が少な

く、利用者が滞在できる場所が少ない状況です。書架間も十分なゆとりが無く、車いすが通りにくい幅になっています。

児童エリアは十分な開架スペースがありますが、読み聞かせを行うおはなし室や児童のためのイベントを実施するスペース、子育て世代が安心して過ごせる授乳室などの設備が不足しています。

バックヤード機能では、職員の作業スペースやボランティアの方が活動できる場所がなく、空いたスペースを活用しながら運用を工夫して活動を行っています。歴史資料、地域資料は、1階開架スペースや、地域ゆかりの人物の資料室に保管していますが、収まりきらない資料や永久保存が必要な資料は、近隣の旧下辺春小学校を活用して保管しています。

敷地内には駐車場がありますが、台数が十分でないうえ、動線としても思いやり駐車場から玄関までの距離が遠くなっています。

**表 4 本館の諸室構成**

階数	諸室
1階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般開架スペース、閲覧席（24席）</li> <li>・ 新聞、雑誌コーナー（12席）</li> <li>・ インターネット利用コーナー</li> <li>・ 視聴覚資料コーナー</li> <li>・ 児童開架スペース</li> <li>・ 事務室、更衣室、倉庫</li> <li>・ 玄関ホール、エレベーター、トイレ等</li> </ul>
2階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 閉架書庫</li> <li>・ 研修室</li> <li>・ 坂本繁二郎資料室</li> <li>・ 山本健吉資料室</li> <li>・ 坂本繁二郎用倉庫、トイレ等</li> </ul>

### 2-2-3 サービス

八女市立図書館では、主に表 5 に示すようなサービスを提供しています。資料の収集、提供などの基本サービスのほか、移動図書館、電子図書館、図書配送サービスなどによる全域サービスも実施しています。

児童サービスとしては、ブックスタート・ブックセカンド事業やおはなし会の実施、ボランティア活動による講座等も開催しています。また市内の保育園を訪問するなど、保育施設との連携も行っていきます。

その他、毎月第4火曜日の「FM八女」への出演や、SNS によるイベント情報のお知らせ

や新着図書の紹介など、積極的に図書館情報を発信しています。

令和4年度から障がい者サービスとして図書の配送サービス、視覚障がい者専用電子図書館を開始したほか、館内に「読書のバリアフリー」コーナーを設置しています。

また、日頃図書館を利用されない方向けの啓発活動として、令和4年10月から地域の商業施設「ゆめタウン八女」へ月2回の移動図書館での貸出を実施しています。

**表 5 八女市立図書館の主なサービス**

項目	内容
資料・情報の収集・整理保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書等の収集・整理保存</li> <li>・ 郷土資料及び郷土作家に関する資料の収集・展示</li> </ul>
資料提供等の基本サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 閲覧、貸出・返却、予約（インターネットによる予約）</li> <li>・ 相互貸借</li> <li>・ レファレンス</li> <li>・ 複写サービス</li> <li>・ インターネットの利用</li> <li>・ 視聴サービス</li> </ul>
全域サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移動図書館（ゆめみらい号、ぶっくらんど号、ぶっくるん号）</li> <li>・ やめし電子図書館</li> <li>・ 貸出文庫</li> <li>・ 読書郵便</li> </ul>
児童サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブックスタート事業</li> <li>・ ブックセカンド事業</li> <li>・ おはなし会（あかちゃんおなはし会）</li> <li>・ 幼稚園、保育園訪問</li> <li>・ ボランティアによるおはなし会や読み聞かせ、布絵本の制作、読み聞かせスキルアップ講座、学校への出前おはなし会 等</li> </ul>
障がい者サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書の配送サービス</li> <li>・ 視覚障がい者専用電子図書館</li> <li>・ 館内の「読書バリアフリー」コーナー</li> </ul>
各種事業・イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読書週間（春・秋）、夏休みイベント</li> <li>・ ブックリサイクル、古本市</li> <li>・ 各種講座、講演会</li> <li>・ 視覚障がい者電子図書館サービス研修会</li> <li>・ 中学生の職場体験</li> <li>・ 短期大学生の図書館実習 等</li> </ul>

項目	内容
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報八女 図書館だより（毎月）</li> <li>・ FM 八女への出演（毎月第4火曜日）</li> <li>・ X（旧 Twitter）によるイベント・企画情報の発信</li> <li>・ LINE による新着図書の紹介（本館：毎週金曜日、分館：毎週火曜日）</li> </ul>

## 2-2-4 利用状況

市全体での貸出冊数と登録者数は、令和元年度、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で一時的に低下していますが、令和3年度から回復しています。

貸出冊数は、令和4年度で23万冊程度の貸出があり、過去10年間で見ても平成27年度に次いで高い数値です。また、貸出密度（人口一人あたりの貸出冊数）は、過去10年間で最も高い3.8冊となりました。利用が増えた背景には、SNSでの情報発信の強化や、おはなし会等のイベント参加者数の増加なども影響していると考えられます。

登録者数も、総数としては減少していますが、登録率（人口に対する登録者数の割合）は大きく下がっておらず、20%程度に保たれています。

表 6 貸出冊数と登録者数の推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
人口	68,576	67,958	67,245	66,249	65,385	
貸出冊数	225,514	219,826	239,415	216,907	210,679	
貸出密度	3.3	3.2	3.6	3.3	3.2	
登録者数	14,570	14,751	14,720	14,478	13,930	
登録率	21.2%	21.7%	21.9%	21.9%	21.3%	

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和4年度と 平成25年度の比較
人口	64,637	63,759	62,816	61,994	60,674	-7,902
貸出冊数	205,259	185,928	148,250	176,050	229,542	4,028
貸出密度	3.2	2.9	2.4	2.8	3.8	0.5
登録者数	13,442	12,770	12,037	11,698	12,685	-1,885
登録率	20.8%	20.0%	19.2%	18.9%	20.9%	-0.3pt

出典：『日本の図書館 2014～2022』

※令和4年度については『日本の図書館』2023 調査報告数値

※貸出密度は人口一人あたりの貸出冊数、登録率は人口に対する登録者数の割合

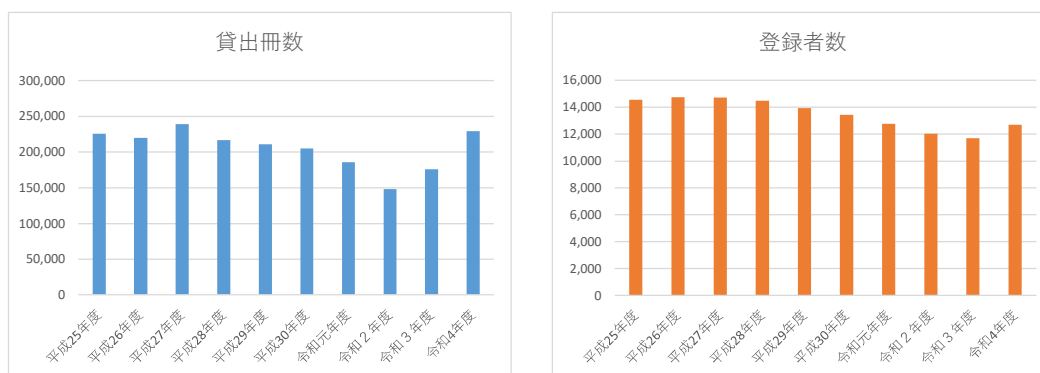


図 6 貸出冊数と登録者数の推移

出典：『日本の図書館 2014～2022』

地区別での利用状況の過去 10 年間の推移は、図 7 及び表 7 のとおりです。貸出冊数の総数は、本館のある旧八女市地区が最も多く、令和 4 年度では 119,489 冊です。

貸出密度（各地区の人口に対する地区別の貸出冊数）は、過去 10 年間で星野村が最も多く、令和 4 年度では 5.7 冊です。星野村では、移動図書館等で一度に数十冊、時には百冊を超える利用もあるなど、市民の活発な利用があることが影響しています。

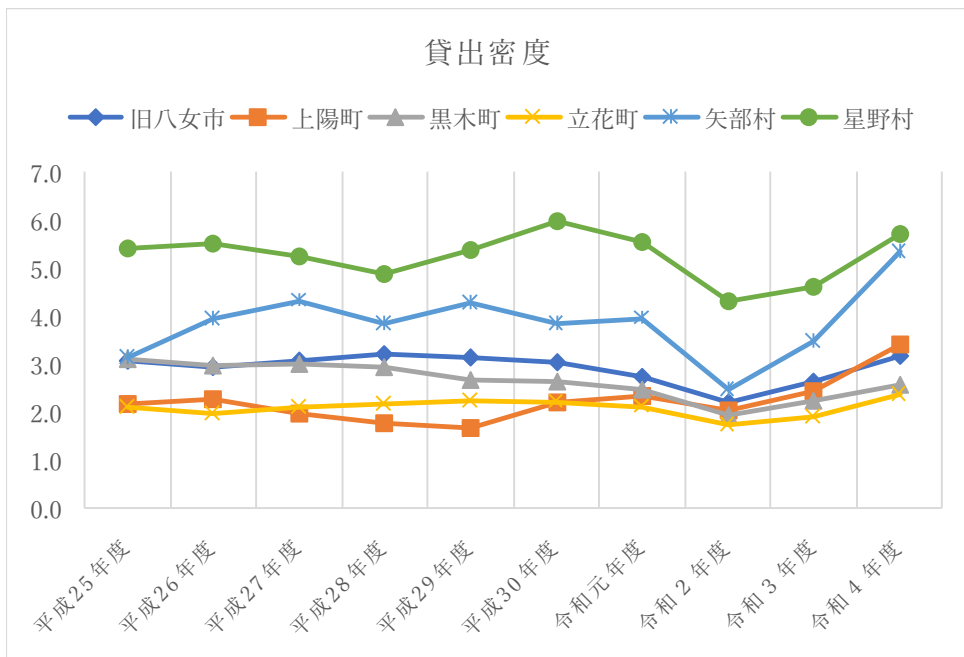
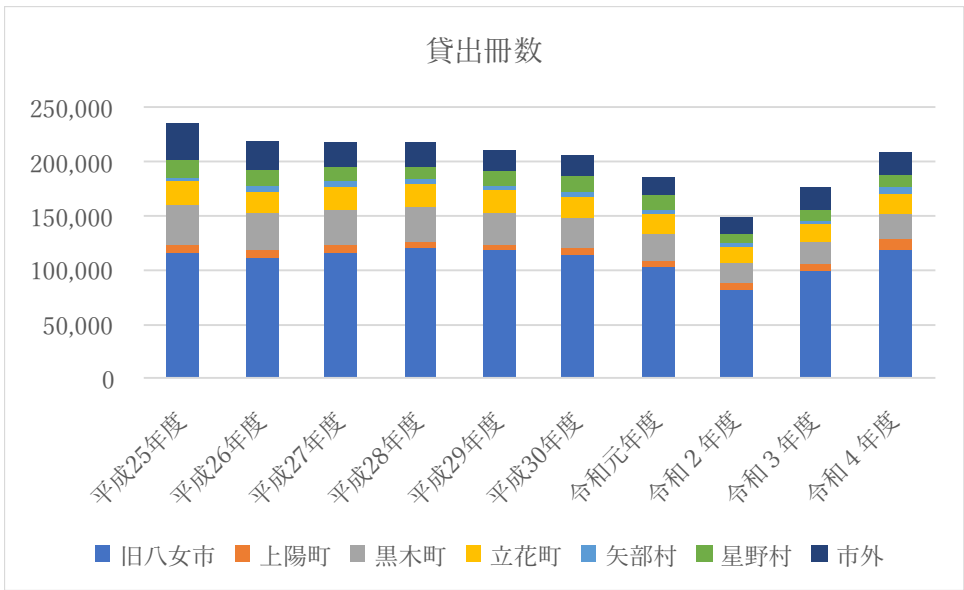


図 7 地区別貸出冊数と貸出密度の推移



表 7 地区別貸出冊数及び人口と貸出密度の推移

地区別貸出冊数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
旧八女市	116,357	110,994	116,201	120,527	118,686	114,788	102,255	82,480	99,127	119,489
上陽町	7,305	7,455	6,405	5,550	5,130	6,182	6,389	5,353	6,637	8,944
黒木町	36,340	34,055	33,372	31,925	28,292	26,923	24,407	18,814	20,901	23,486
立花町	21,648	19,887	20,682	20,949	20,944	20,165	18,580	14,954	15,939	19,270
矢部村	4,260	5,177	5,475	4,685	4,994	4,337	4,240	2,541	3,476	4,918
星野村	15,654	15,269	14,039	12,670	13,539	14,494	12,998	9,726	10,105	12,148
市外	33,957	26,989	22,280	20,694	19,262	18,391	17,104	14,409	19,664	21,140
合計	235,521	219,826	218,454	217,000	210,847	205,280	185,973	148,277	175,849	209,395

地区別人口（行政地区別）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
旧八女市	37,862	37,828	37,671	37,564	37,651	37,678	37,504	37,533	37,641	37,708
上陽地区	3,364	3,303	3,272	3,144	3,046	2,786	2,736	2,630	2,711	2,616
黒木地区	11,709	11,429	11,125	10,873	10,565	10,266	9,926	9,653	9,372	9,150
立花地区	10,340	10,121	9,875	9,618	9,375	9,081	8,788	8,607	8,373	8,157
矢部地区	1,356	1,312	1,269	1,222	1,171	1,129	1,074	1,034	1,000	920
星野地区	2,897	2,780	2,673	2,606	2,514	2,431	2,351	2,257	2,191	2,123
合計	67,528	66,773	65,885	65,027	64,322	63,371	62,379	61,714	61,288	60,674

※数値は、各年度末時点のもの

貸出密度（貸出冊数／人口）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
旧八女市	3.1	2.9	3.1	3.2	3.2	3.0	2.7	2.2	2.6	3.2
上陽町	2.2	2.3	2.0	1.8	1.7	2.2	2.3	2.0	2.4	3.4
黒木町	3.1	3.0	3.0	2.9	2.7	2.6	2.5	1.9	2.2	2.6
立花町	2.1	2.0	2.1	2.2	2.2	2.2	2.1	1.7	1.9	2.4
矢部村	3.1	3.9	4.3	3.8	4.3	3.8	3.9	2.5	3.5	5.3
星野村	5.4	5.5	5.3	4.9	5.4	6.0	5.5	4.3	4.6	5.7
全体	3.5	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.0	2.4	2.9	3.5

年代別の利用状況について過去10年間の推移は、図8及び図9のとおりです。

小学生、30代、50代の利用は、新型コロナウイルスの影響で一時的に減少していますが、近年では回復傾向にあります。40代の利用は増加傾向にあり、とくに乳幼児、60代の利用は著しく増加しています。

反対に、高校生、大学生、20代の利用が減少しており、もともと利用の少ない若い世代の利用が近年さらに減少していることが分かります。

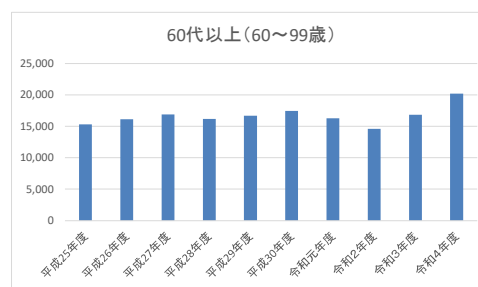
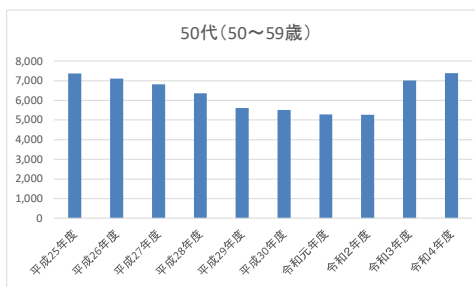
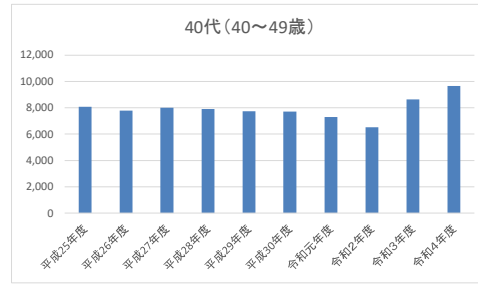
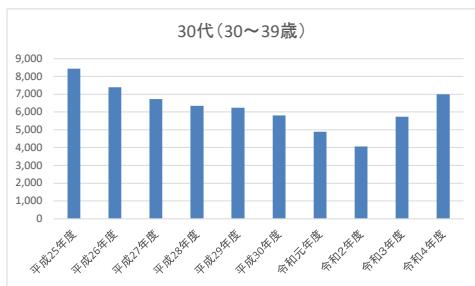
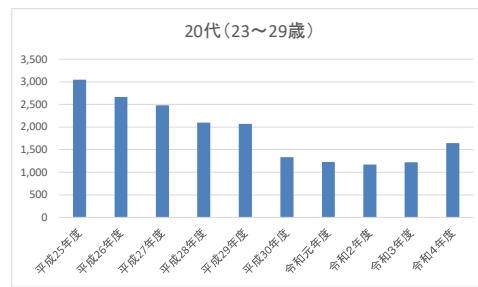
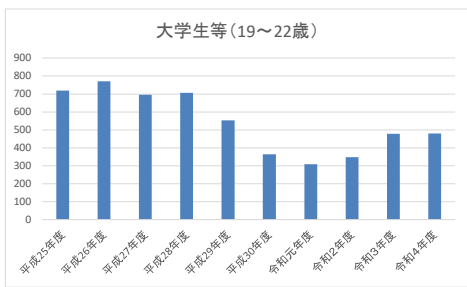
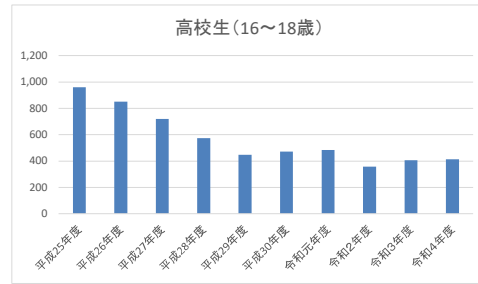
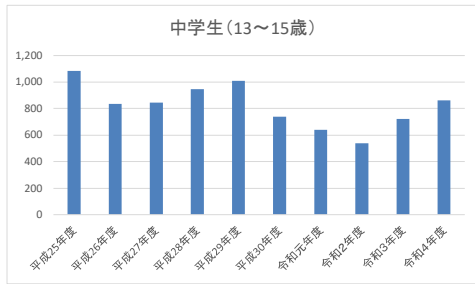
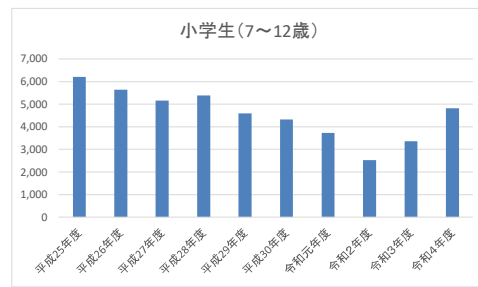
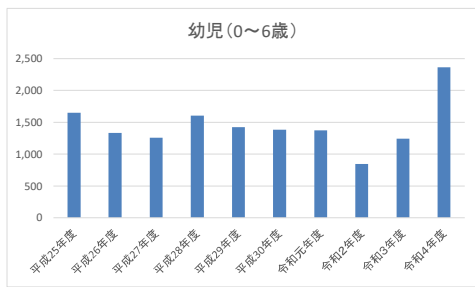


図 8 各年代利用人数の推移（年代別棒グラフ）

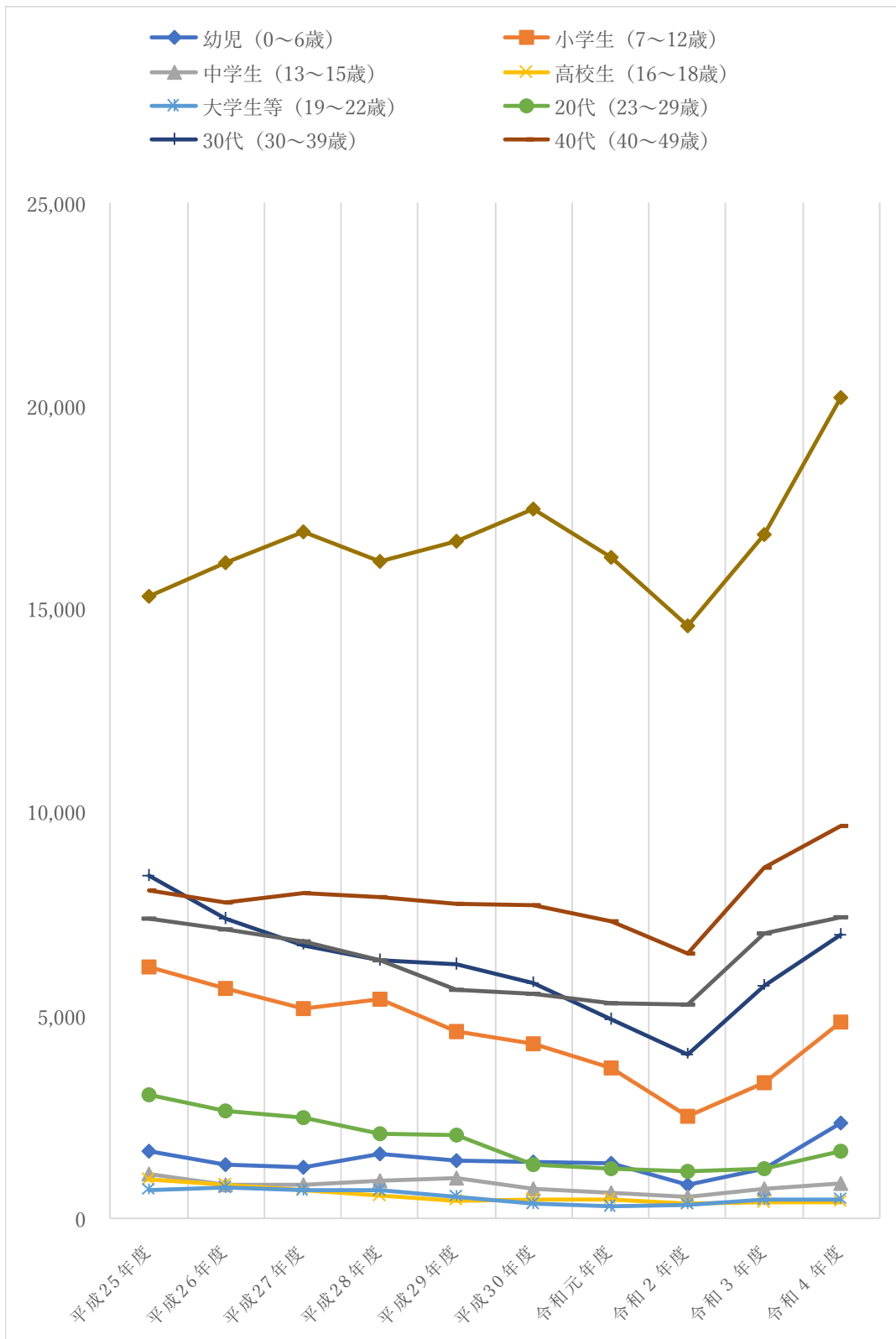


図 9 各年代利用人数の推移 (折れ線グラフ)

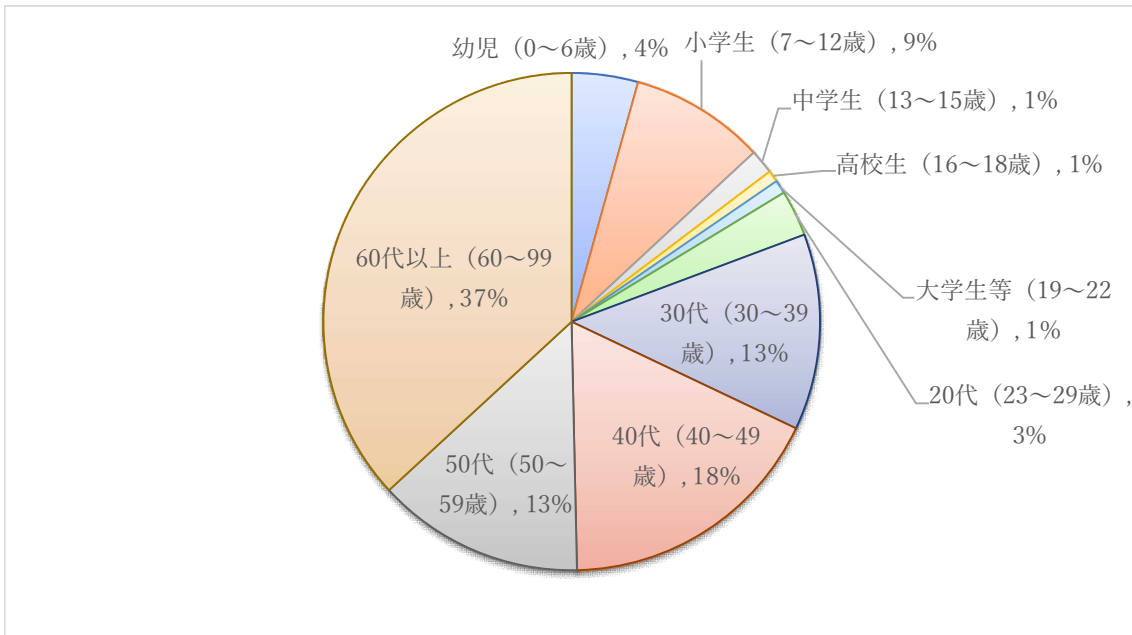


図 10 令和4年度における各年代利用人数割合

### 2-2-5 移動図書館

広い市域を持つ八女市では、移動図書館の利用状況にも地区別に特徴がみられます。

移動図書館の貸出は、表 8 のとおりどの地区においても児童書が多く、利用者も幼児、小学生と、50代、60代以上の利用が多くなっています。

令和4年度におけるステーション数は合計90か所で、地区別では星野地区のステーション数が最も多く、令和4年度は31か所を巡回しています。1ステーションあたりの利用人数をみると、上陽地区、矢部地区において100人以上、それ以外の地区では30人前後となっています。1か所に多くの利用者が集まる地区と、少ない利用者でも多くの拠点を回ることによって資料を提供している地区があり、地域によって特色がある状況です。

地区全体の貸出冊数に対する移動図書館の貸出冊数の割合をみると、上陽地区、黒木地区では30%以上、星野地区では40%を、移動図書館の貸出が占めており、移動図書館が各地域に資料へのアクセスを向上させる役割を十分に果たしていることが分かります。

表 8 令和4年度における移動図書館の地区別貸出冊数及び利用人数

地区	貸出冊数					
	一般図書	児童図書	雑誌	A V	他	合計
旧八女市地区	1,551	5,742	408	7	0	7,708
上陽地区	354	2,471	60	0	0	2,885
黒木地区	1,778	5,253	292	76	0	7,399
立花地区	515	2,903	63	15	0	3,496
矢部地区	139	1,071	8	5	0	1,223
星野地区	1,928	2,672	364	0	0	4,964
合計	6,265	20,112	1,195	103	0	27,675

地区	利用者人数										
	幼児 (0～6歳)	小学生 (7～12歳)	中学生 (13～15歳)	高校生 (16～18歳)	大学生等 (19～22歳)	20代 (23～29歳)	30代 (30～39歳)	40代 (40～49歳)	50代 (50～59歳)	60代以上 (その他)	合計
旧八女市地区	371	0	0	1	0	0	5	6	10	117	510
上陽地区	64	534	5	0	0	0	3	0	17	3	626
黒木地区	241	195	62	16	0	18	46	13	70	160	821
立花地区	153	3	2	0	0	10	16	12	6	61	263
矢部地区	163	248	9	0	0	0	3	17	1	24	465
星野地区	327	283	0	0	0	0	1	17	55	235	918
合計	1,319	1,263	78	17	0	28	74	65	159	600	3,603

表 9 令和4年度における移動図書館の地区別ステーション状況

地区	ステーション数 (箇所)	1ステーションあたりの貸出冊数 (冊)	1ステーションあたりの利用人数 (人)
旧八女市地区	20	385	26
上陽地区	5	577	125
黒木地区	23	322	36
立花地区	8	437	33
矢部地区	3	408	155
星野地区	31	160	30
合計	90	2,289	404

表 10 令和4年度における移動図書館の地区別利用状況

地区	1利用あたりの冊数 (貸出冊数/利用人数)	本館・分館を含む	
		地区別貸出冊数 (冊)	うち移動図書館貸 出割合(%)
旧八女市地区	15	119,489	6.5%
上陽地区	5	8,944	32.3%
黒木地区	9	23,486	31.5%
立花地区	13	19,270	18.1%
矢部地区	3	4,918	24.9%
星野地区	5	12,148	40.9%
合計	50	188,255	-

### 2-2-6 蔵書構成と蔵書数推移

市立図書館全体の蔵書構成は表 11 のとおりです。一般書では、市全体でも本館においても「文学」の割合が40%と最も多い状況です。一般的な図書館の割合と比較しても、八女市における「文学」の割合は比較的高く、利用者ニーズが多いことが影響していると考えられます。

表 11 蔵書構成

区分	本館	本館での割合	上陽分館	黒木分館	立花分館	矢部分館	星野分館	市全体	市全体での割合	
一般書	総記	2,346	3%	160	397	161	105	287	3,456	3%
	哲学	2,457	3%	257	728	364	280	505	4,591	3%
	歴史	6,228	8%	687	2,278	940	366	588	11,087	8%
	社会科学	8,684	11%	741	2,703	1,022	491	1,192	14,833	11%
	自然科学	4,014	5%	447	1,218	655	400	649	7,383	6%
	技術・工学	5,266	7%	1,001	2,175	1,142	642	1,360	11,586	9%
	産業	2,062	3%	349	982	396	199	523	4,511	3%
	芸術・美術	5,503	7%	693	2,686	851	340	1,390	11,463	9%
	言語	1,172	2%	152	409	158	78	169	2,138	2%
	文学	29,577	38%	3,077	10,980	4,057	2,276	2,825	52,792	40%
郷土資料	9,799	13%	-	-	-	-	-	9,799	7%	
合計	77,108	100%	7,564	24,556	9,746	5,177	9,488	133,639	100%	
児童書	総記	244		67	144	121	35	97	708	
	哲学	292		83	198	129	58	136	896	
	歴史	1,142		269	685	511	190	450	3,247	
	社会科学	1,253		318	793	470	150	363	3,347	
	自然科学	2,047		414	1,214	724	306	635	5,340	
	技術・工学	806		300	540	394	189	328	2,557	
	産業	628		157	323	218	83	156	1,565	
	芸術・美術	1,215		530	663	526	207	626	3,767	
	言語	465		129	243	127	72	101	1,137	
	文学	8,356		1,918	5,119	2,822	991	2,479	21,685	
	絵本	11,226	40%	2,144	5,167	3,628	2,443	3,117	27,725	38%
	紙芝居	488	2%	133	321	349	123	249	1,663	2%
合計	28,162	100%	6,462	15,410	10,019	4,847	8,737	73,637	100%	
図書資料計	105,270	100%	14,026	39,966	19,765	10,024	18,225	207,276	100%	

雑誌	3,005	-	-	395	1,078	985	482	968	6,913	-	-
AV	1,722	-	-	171	251	242	129	202	2,717	-	-
総計	109,997	-	-	14,592	41,295	20,992	10,635	19,395	216,906	-	-

出典：『令和5年度要覧』（令和5年3月31日現在）

※郷土資料の点数を各分類より抽出し、別途集計

市全体の蔵書数は、過去10年間で2万冊程度増加しています。

本館では過去10年間で3千冊程度増加し、平成29年度以降からは10万冊を超えている状態が続いています。施設としての収容能力は8万冊であるため、蔵書数が収容能力を超えている状況です。

表 1 2 市全体の蔵書数推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
蔵書冊数	188,167	181,568	186,785	190,610	199,381	
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和4年度と 平成25年度の比較
蔵書冊数	201,110	202,060	201,663	204,235	207,276	19,109

出典：『日本の図書館 2014～2022』

表 1 3 本館の蔵書数推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
蔵書冊数	101,901	95,945	97,458	99,491	103,760	
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和4年度と 平成25年度の比較
蔵書冊数	101,118	100,579	101,813	103,726	105,270	3,369

出典：『日本の図書館 2014～2022』



## 2-3 他自治体等との比較

### 2-3-1 図書館の設置及び運営上の望ましい基準との比較

八女市全体では20万冊以上の蔵書を備えていますが、『図書館の設置及び運営上の望ましい基準』において、人口規模に対して適切とされる蔵書数は約30万冊で、10万冊程度不足しています。図書館の延床面積、登録者数、貸出数等においても、基準に到達していないのが現状です。

一方で、開架率は基準を満たしており適切な開架冊数が保たれています。また分館を含む図書館数も基準を大きく上回っており、市民への資料提供の機会が十分に保たれていると言えます。

表 14 望ましい基準との比較

都道府県名	自治体名	人口(人)	図書館数(館)	延床面積(m <sup>2</sup> )	蔵書冊数(冊)			1m <sup>2</sup> あたりの冊数(冊)
					うち開架(冊)	開架率		
福岡	八女市	61,994	6	2,261	204,235	141,910	69.5%	90.3
望ましい基準(～6万人)		53,647	2	3,762	302,810	197,680	65.3%	80.5
望ましい基準との差		8,347	4	-1,501	-98,575	-55,770	4.2pt	9.8

都道府県名	自治体名	年間購入冊数購入(冊)	登録者数(人)	貸出数(冊)	予約件数(件)	予算額図書館費(千円)	予算額資料費(千円)	1人あたりの資料費(円)
福岡	八女市	5,777	11,698	176,050	21,691	72,740	14,154	228.3
望ましい基準(～6万人)		11,109	34,650	543,062	32,764	85,328	19,454	360.6
望ましい基準との差		-5,332	-22,952	-367,012	-11,073	-12,588	-5,300	-132.3

※上記「望ましい基準(～6万人)」の数値は、日本図書館協会『『貸出密度上位の公立図書館整備状況・2019』について』による

※八女市数値出典：『日本の図書館2022』

### 2-3-2 同規模自治体との比較

人口が八女市と同規模(6万2千人前後)の自治体では、延床面積平均値が3,110 m<sup>2</sup>、蔵書冊数平均値が28万冊程度です。分館を含む八女市立図書館全体での延床面積は、2,261 m<sup>2</sup>、蔵書は20万冊程度であるため、同規模自治体の平均値を下回っています。その他、登録者数、貸出冊数等においても、同規模自治体の平均値を下回っています。

表 15 同規模人口自治体との比較（6万2千人前後）

No.	都道府県名	自治体名	人口(人)	図書館数(館)	延床面積(m <sup>2</sup> )	蔵書冊数(冊)			1人あたりの蔵書冊数(冊)	1mあたりの冊数(冊)	受入冊数(冊)		登録者数(人)		貸出数(冊)		予約件数(件)	予算額図書館費(千円)	予算額資料費(千円)	1人あたりの資料費(円)	
						順位	うち開架(冊)	開架率			うち購入(冊)	登録率	貸出密度								
1	福岡県	八女市	61,994	6	2,261	204,235	19	141,910	69.5%	3.3	90.3	6,813	5,777	11,698	18.9%	176,050	2.8	21,691	72,740	14,154	228.3
2	長野県	千曲市	60,097	3	1,678	246,055	16	140,217	57.0%	4.1	146.6	5,811	5,433	17,046	28.4%	229,483	3.8	21,721	68,863	13,592	226.2
3	福島県	白河市	60,110	4	4,020	429,726	3	284,561	66.2%	7.1	106.9	19,834	18,512	42,864	71.3%	564,001	9.4	50,526	233,145	42,732	710.9
4	栃木県	下野市	60,163	3	4,131	324,932	9	214,328	66.0%	5.4	78.7	8,552	7,680	26,776	44.5%	325,729	5.4	20,892	123,394	15,197	252.6
5	愛知県	長久手市	60,183	1	4,201	234,339	18	92,763	39.6%	3.9	55.8	7,972	7,498	49,824	82.8%	492,258	8.2	17,065	93,913	18,570	308.6
6	青森県	十和田市	60,345	1	3,199	186,739	21	124,896	66.9%	3.1	58.4	6,508	5,970	30,132	49.9%	197,105	3.3	2,673	58,116	14,303	237.0
7	宮崎県	日向市	60,570	1	1,202	182,547	23	114,667	62.8%	3.0	151.9	7,003	6,563	48,159	79.5%	137,262	2.3	12,185	50,394	11,000	181.6
8	愛知県	田原市	60,895	3	6,006	439,175	2	319,774	72.8%	7.2	73.1	11,638	9,549	67,358	110.6%	535,630	8.8	77,422	64,919	20,203	331.8
9	和歌山県	紀の川市	61,094	2	1,949	174,899	24	152,228	87.0%	2.9	89.7	6,916	6,064	30,261	49.5%	212,701	3.5	6,456	81,925	14,158	231.7
10	大阪府	泉南市	61,149	1	1,600	319,554	10	106,291	33.3%	5.2	199.7	6,650	6,055	61,346	100.3%	232,021	3.8	25,532	19,259	8,812	144.1
11	埼玉県	秩父市	61,159	2	4,295	404,470	4	185,635	45.9%	6.6	94.2	10,726	9,233	43,127	70.5%	215,442	3.5	13,783	76,936	24,202	395.7
12	愛知県	みよし市	61,277	1	3,807	317,927	11	191,820	60.3%	5.2	83.5	16,642	15,236	18,468	30.1%	607,752	9.9	31,657	79,587	39,450	643.8
13	宮城県	気仙沼市	61,445	2	3,424	338,918	7	165,754	48.9%	5.5	99.0	8,176	4,744	27,783	45.2%	211,093	3.4	8,305	147,224	9,362	152.4
14	埼玉県	蓮田市	61,540	1	3,028	235,170	17	143,901	61.2%	3.8	77.7	3,535	3,207	49,100	79.8%	337,179	5.5	36,832	93,104	9,192	149.4
15	山口県	山陽小野田市	61,565	4	4,186	338,273	8	122,588	36.2%	5.5	80.8	8,801	7,170	48,537	78.8%	303,735	4.9	28,108	49,116	21,824	354.5
16	愛知県	津島市	61,724	1	5,900	300,477	12	176,081	58.6%	4.9	50.9	7,476	6,906	56,696	91.9%	357,723	5.8	13,839	98,582	11,568	187.4
17	和歌山県	橋本市	61,774	1	1,400	164,918	25	164,918	100.0%	2.7	117.8	4,105	3,692	39,055	63.2%	218,791	3.5	12,811	43,108	7,598	123.0
18	山形県	天童市	61,908	1	1,967	203,840	20	90,577	44.4%	3.3	103.6	6,933	6,523	15,706	25.4%	205,177	3.3	8,511	67,258	14,964	241.7
19	宮城県	多賀城市	62,311	1	3,342	283,298	13	223,392	78.9%	4.5	84.8	8,016	7,310	47,357	76.0%	612,291	9.8	42,721	277,104	15,560	249.7
20	沖縄県	糸満市	62,349	1	3,610	256,186	15	137,022	53.5%	4.1	71.0	5,041	4,479	55,460	89.0%	188,129	3.0	7,616	117,975	11,867	190.3
21	茨城県	常総市	62,570	1	1,646	140,140	26	98,193	70.1%	2.2	85.1	3,625	3,311	19,678	31.4%	102,381	1.6	1,975	37,558	9,752	155.9
22	愛知県	愛西市	62,648	2	2,275	183,680	22	142,189	77.4%	2.9	80.7	4,697	4,257	27,189	43.4%	167,048	2.7	5,515	67,172	8,767	139.9
23	熊本県	合志市	63,033	3	2,351	266,714	14	197,554	74.1%	4.2	113.4	10,348	9,981	24,086	38.2%	438,432	7.0	39,103	105,520	19,000	301.4
24	千葉県	白井市	63,162	1	2,919	561,118	1	138,606	24.7%	8.9	192.2	11,645	9,955	33,801	53.5%	417,706	6.6	105,221	77,096	22,905	362.6
25	兵庫県	丹波市	63,235	6	2,835	393,956	5	292,513	74.3%	6.2	139.0	11,372	10,956	34,875	55.2%	346,368	5.5	88,525	47,921	28,149	445.1
26	沖縄県	名護市	63,724	1	4,622	343,743	6	49,289	14.3%	5.4	74.4	13,339	12,209	57,089	89.6%	201,928	3.2	14,161	137,249	21,434	336.4
27	奈良県	大和高田市	63,781	1	1,268	104,638	27	65,885	63.0%	1.6	82.5	2,602	2,120	34,625	54.3%	173,372	2.7	15,985	14,773	5,230	82.0
同規模人口26自治体の平均値			61,685	2	3,110	283,670	—	159,063	56.1%	4.6	99.7	8,383	7,485	38,708	62.8%	308,875	5.0	27,275	89,662	16,900	274.0
平均値との差			309	4	-849	-79,435	—	-17,153	13.4pt	-1.3	-9.3	-1,570	-1,708	-27,010	-43.9pt	-132,825	-2.2	-5,584	-16,922	-2,746	-45.7

出典：『日本の図書館 2022』

※蔵書冊数には分室や移動図書館等の冊数も含む

※出典については、他自治体の公開情報と比較するため、八女市を含む全ての図書館において『日本の図書館 2022』の数値を使用

### 2-3-3 県内他市との比較

福岡県内における他市との比較において、各市の蔵書冊数を人口1人あたりに換算すると、平均値は3.6冊です。八女市の人口1人あたりの蔵書冊数は3.3冊であるため、平均よりやや下回っています。

県内他市の中で人口規模の近い柳川市では、延床面積が5,823㎡あり、蔵書も47万冊程度所蔵しており、八女市の蔵書数はその半数以下の状況です。

表 16 県内他市との比較

No.	都道府県名	自治体名	人口(人)	図書館数(館)	延床面積(m <sup>2</sup> )	蔵書冊数(冊)		1人あたりの蔵書冊数(冊)	1m <sup>2</sup> あたりの冊数(冊)	受入冊数(冊)		登録者数(人)		貸出数(冊)		予約件数(件)	予算額図書館費(千円)	予算額資料費(千円)	1人あたりの資料費(円)	
						うち開架(冊)	開架率			うち購入(冊)	登録率	貸出密度								
1	福岡県	八女市	61,994	6	2,261	204,235	141,910	69.5%	3.3	90.3	6,813	5,777	11,698	18.9%	176,050	2.8	21,691	72,740	14,154	228.3
2	福岡県	久留米市	304,666	6	9,912	858,060	620,521	72.3%	2.8	86.6	23,819	21,697	41,361	13.6%	1,230,284	4.0	42,865	188,869	47,111	154.6
3	福岡県	飯塚市	127,552	5	4,414	480,093	284,351	59.2%	3.8	108.8	17,433	16,791	62,347	48.9%	468,713	3.7	26,335	148,172	36,175	283.6
4	福岡県	春日市	113,313	1	2,632	323,627	134,692	41.6%	2.9	123.0	9,535	8,365	50,454	44.5%	737,352	6.5	72,914	119,000	21,000	185.3
5	福岡県	大牟田市	111,967	1	2,203	301,231	202,540	67.2%	2.7	136.7	11,233	10,587	24,996	22.3%	352,315	3.1	35,914	21,247	21,247	189.8
6	福岡県	筑紫野市	104,616	1	2,213	262,560	168,400	64.1%	2.5	118.6	11,452	10,857	24,539	23.5%	576,147	5.5	45,031	207,740	24,076	230.1
7	福岡県	糸島市	102,547	3	3,469	307,972	214,788	69.7%	3.0	88.8	10,091	7,435	32,676	31.9%	464,746	4.5	9,796	96,605	16,378	159.7
8	福岡県	大野城市	101,950	1	1,418	248,870	145,480	58.5%	2.4	175.5	9,542	9,085	56,641	55.6%	768,470	7.5	95,034	101,181	20,000	196.2
9	福岡県	宗像市	97,201	3	2,531	270,471	159,223	58.9%	2.8	106.9	6,093	5,839	19,438	20.0%	483,437	5.0	63,493	91,082	17,029	175.2
10	福岡県	行橋市	73,045	1	5,143	261,233	173,268	66.3%	3.6	50.8	8,263	7,351	42,356	58.0%	345,719	4.7	8,376	22,516	22,516	308.2
11	福岡県	太宰府市	71,922	1	1,485	220,877	139,939	63.4%	3.1	148.7	8,690	8,189	24,598	34.2%	409,801	5.7	26,848	75,824	15,584	216.7
12	福岡県	福津市	67,257	1	4,086	244,320	155,462	63.6%	3.6	59.8	9,697	9,130	48,454	72.0%	550,583	8.2	48,865	105,791	19,545	290.6
13	福岡県	柳川市	65,016	6	5,823	477,033	-	-	7.3	81.9	7,931	5,971	24,026	37.0%	251,353	3.9	20,515	136,541	15,065	231.7
14	福岡県	古賀市	59,645	1	1,862	219,382	131,842	60.1%	3.7	117.8	4,722	4,011	19,060	32.0%	279,903	4.7	18,275	54,931	13,181	221.0
15	福岡県	小郡市	59,585	1	1,586	234,000	116,723	49.9%	3.9	147.5	17,044	7,167	39,392	66.1%	268,967	4.5	26,930	27,543	11,900	199.7
16	福岡県	直方市	56,240	1	2,382	191,128	134,968	70.6%	3.4	80.2	5,706	4,734	40,003	71.1%	191,355	3.4	4,122	19,090	9,400	167.1
17	福岡県	朝倉市	52,160	3	3,313	335,993	218,875	65.1%	6.4	101.4	13,218	12,691	18,912	36.3%	231,767	4.4	5,342	81,517	26,907	515.9
18	福岡県	那珂川市	50,444	1	2,000	190,444	108,761	57.1%	3.8	95.2	6,122	5,793	38,353	76.0%	345,352	6.8	16,781	25,571	15,999	317.2
19	福岡県	筑後市	49,532	1	752	138,255	104,901	75.9%	2.8	183.8	5,709	5,333	14,038	28.3%	221,694	4.5	14,782	47,528	10,133	204.6
20	福岡県	田川市	46,781	1	2,104	182,322	101,038	55.4%	3.9	86.7	5,538	4,967	32,171	68.8%	113,781	2.4	5,245	76,546	10,034	214.5
21	福岡県	中間市	40,992	1	1,895	115,327	96,697	83.8%	2.8	60.9	3,077	3,002	36,446	88.9%	112,658	2.7	7,902	20,011	6,546	159.7
22	福岡県	嘉麻市	36,946	4	3,838	264,352	180,788	68.4%	7.2	68.9	6,202	5,252	16,640	45.0%	107,604	2.9	16,606	129,029	19,750	534.6
23	福岡県	みやま市	36,584	3	2,783	222,242	180,166	81.1%	6.1	79.9	5,158	4,799	10,997	30.1%	190,986	5.2	10,851	94,407	13,085	357.7
24	福岡県	大川市	33,375	1	1,513	124,703	86,870	69.7%	3.7	82.4	5,776	4,796	21,831	65.4%	102,807	3.1	1,426	44,115	8,517	255.2
25	福岡県	うきは市	28,916	1	2,796	108,439	74,133	68.4%	3.8	38.8	4,850	4,518	14,910	51.6%	95,021	3.3	2,221	56,788	10,545	364.7
26	福岡県	宮若市	27,442	2	1,618	167,650	127,655	76.1%	6.1	103.6	8,323	8,047	11,728	42.7%	126,864	4.6	4,665	40,968	15,326	558.5
27	福岡県	豊前市	24,940	1	1,983	153,025	76,041	49.7%	6.1	77.2	4,040	3,544	23,951	96.0%	79,759	3.2	2,908	26,300	5,534	221.9
県内他市の平均値			74,794	2	2,914	265,523	165,525	62.3%	3.6	100.4	8,818	7,690	30,397	40.6%	350,286	4.5	24,386	79,189	17,407	232.7
平均値との差			-12,800	4	-653	-61,288	-23,615	7.1pt	-0.3	-10.1	-2,005	-1,913	-18,699	-21.8pt	-174,236	-1.7	-2,695	-6,449	-3,253	-4.4

出典：『日本の図書館 2022』

※蔵書冊数には分室や移動図書館等の冊数も含む

※出典については、他自治体の公開情報と比較するため、八女市を含む全ての図書館において『日本の図書館 2022』の数値を使用

#### 2-3-4 同規模面積自治体との比較

八女市の面積は 482 km<sup>2</sup>であるため、政令指定都市、町村を除く 480 km<sup>2</sup>前後の自治体 20 市と比較します。人口一人当たりの蔵書冊数は平均値 4.0 冊に対して八女市は 3.3 冊ですが、大きく下回っているということはありません。また、同じ市域を持つ自治体の中でも、八女市は十分な分館数を持っていることが分かります。

表 17 同規模面積自治体との比較

No.	都道府県名	自治体名	自治体面積 (km <sup>2</sup> )	人口(人)	図書館数(館)	延床面積 (m <sup>2</sup> )	蔵書冊数(冊)			1人あたりの蔵書冊数(冊)	1m <sup>2</sup> あたりの冊数(冊)	受入冊数(冊)		登録者数(人)		貸出数(冊)		予約件数(件)	予算額図書館費(千円)	予算額資料費(千円)	1人あたりの資料費(円)
							うち開架(冊)	開架率	うち購入(冊)			登録率	貸出密度								
1	福岡県	八女市	482.44	61,994	6	2,261	204,235	141,910	69.5%	3.3	90.3	6,813	5,777	11,698	18.9%	176,050	2.8	21,691	72,740	14,154	228.3
2	愛媛県	西条市	510.04	108,025	4	8,472	646,849	379,612	58.7%	6.0	76.4	20,979	13,667	61,104	56.6%	496,744	4.6	6,735	184,123	69,457	643.0
3	岡山県	津山市	506.33	99,821	4	4,638	483,548	295,192	61.0%	4.8	104.3	9,897	8,435	82,211	82.4%	452,116	4.5	79,253	130,137	20,000	200.4
4	岐阜県	恵那市	504.24	49,096	1	2,652	244,340	129,732	53.1%	5.0	92.1	6,273	5,590	22,520	45.9%	245,688	5.0	3,785	103,490	12,450	253.6
5	北海道	根室市	502.65	24,858	1	2,433	169,998	-	-	6.8	69.9	4,437	3,507	9,908	39.9%	73,988	3.0	3,092	41,452	7,000	281.6
6	大分県	大分市	502.39	478,463	2	7,043	809,244	604,572	74.7%	1.7	114.9	29,508	28,462	251,909	52.6%	1,412,912	3.0	179,111	320,780	53,397	111.6
7	京都府	京丹後市	501.44	53,674	6	2,651	293,679	231,795	78.9%	5.5	110.8	7,442	5,370	19,908	37.1%	290,168	5.4	28,161	70,320	9,380	174.8
8	兵庫県	丹波市	493.21	63,235	6	2,835	393,956	292,513	74.3%	6.2	139.0	11,372	10,956	34,875	55.2%	346,368	5.5	88,525	47,921	28,149	445.1
9	大分県	中津市	491.44	83,808	5	4,309	342,343	212,136	62.0%	4.1	79.4	11,416	10,967	48,889	58.3%	454,285	5.4	42,758	100,456	22,928	273.6
10	栃木県	鹿沼市	490.64	96,340	3	4,167	428,135	315,945	73.8%	4.4	102.7	14,112	12,954	42,139	43.7%	425,496	4.4	44,511	110,972	24,359	252.8
11	佐賀県	唐津市	487.6	119,869	2	4,887	437,228	128,256	29.3%	3.6	89.5	11,790	10,685	46,295	38.6%	303,393	2.5	31,865	105,493	25,244	210.6
12	滋賀県	甲賀市	481.62	90,194	5	8,055	676,872	471,048	69.6%	7.5	84.0	16,381	14,356	47,326	52.5%	563,111	6.2	61,593	122,003	26,700	296.0
13	北海道	岩見沢市	481.02	79,352	2	4,047	305,899	204,152	66.7%	3.9	75.6	8,650	7,934	45,516	57.4%	301,135	3.8	1,742	90,693	19,336	243.7
14	大分県	竹田市	477.53	20,855	1	1,578	138,098	89,137	64.5%	6.6	87.5	6,233	4,991	8,088	38.8%	111,842	5.4	6,852	45,407	8,500	407.6
15	山口県	美祇市	472.64	23,375	3	1,392	189,535	-	-	8.1	136.2	2,978	2,917	5,151	22.0%	64,278	2.7	3,629	25,292	7,519	321.7
16	岐阜県	関市	472.33	87,245	3	3,185	434,122	250,235	57.6%	5.0	136.3	12,997	12,154	62,005	71.1%	517,677	5.9	28,598	48,160	28,390	325.4
17	広島県	三原市	471.51	92,009	4	4,145	386,538	222,055	57.4%	4.2	93.3	11,942	10,575	56,406	61.3%	396,592	4.3	94,054	153,733	20,955	227.7
18	北海道	網走市	471	34,640	1	1,543	214,414	135,687	63.3%	6.2	139.0	5,315	4,490	8,643	25.0%	119,276	3.4	5,612	35,093	8,986	259.4
19	石川県	金沢市	468.81	451,018	6	24,955	1,654,281	689,925	41.7%	3.7	66.3	48,879	38,919	180,254	40.0%	2,216,089	4.9	382,275	642,058	116,920	259.2
20	愛媛県	宇和島市	468.15	73,067	3	3,564	333,492	149,147	44.7%	4.6	93.6	9,069	5,527	32,515	44.5%	150,419	2.1	13,766	33,922	16,000	219.0
同規模面積20自治体の平均値				112,050	3	5,082	451,714	282,420	62.5%	4.0	99.5	13,141	11,182	56,087	50.1%	470,609	4.3	58,206	126,921	27,667	246.9
平均値との差				-50,056	3	-2,821	-247,479	-140,510	7.0pt	-0.7	-9.2	-6,328	-5,405	-44,389	-31.2pt	-294,559	-1.5	-36,515	-54,181	-13,513	-18.6

出典：『日本の図書館 2022』

※蔵書冊数には分室や移動図書館等の冊数も含む

※出典については、他自治体の公開情報と比較するため、八女市を含む全ての図書館において『日本の図書館 2022』の数値を使用

※自治体面積は、国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(面積調) 令和5年4月1日のデータによる

※政令指定都市・町村を除く480km<sup>2</sup>前後の市を対象とする

### 2-3-5 先進的な図書館事例

基本計画策定に当たり、近年の日本の公立図書館の変遷及び先進事例を調査しました。

戦前の図書館は、大部分が有料であったり、資料は基本閉架書庫に入っていたりと、利用者が自由に閲覧できない状態でした。その後、昭和 25 年に図書館法が施行され、無料公開制、利用者が直接資料を手にとれる公開書架、館外貸出など、今の図書館にも通じる理念が法に謳われましたが、すぐには対応されず、学生や受験生が自習目的で行くような勉強部屋型が主となっていました。

その流れが変わったきっかけは、日本図書館協会による昭和 38 年の『中小都市における公共図書館の運営』、昭和 45 年の『市民の図書館』です。この 2 つでは、図書館の基本機能が資料提供であること、貸出を中心とした中小図書館による全域サービス、図書館の利用習慣に結びつくような児童へのサービスを重視することなどが示されました。そこから、利用者が直接資料を手に取り、気軽に利用できる貸出型への転換が起こります。

次に、館内でゆっくり本を読むなど、長時間館内で過ごすような形を許容する、滞在型へと移っていき、この流れは今も続いています。

平成 22 年頃からは、ひとつの建物の中に図書館を含む複数の機能が入居する多機能型や、特定の利用者層やテーマに絞ってサービスを提供する特化型と呼ばれる図書館ができてきました。また、建築的にも美しく、まちのシンボルとなっている図書館もあるほか、さらに近年は、図書を通じて様々な活動と連携する施設として図書館を整備する事例もあります。

このように、日本の公立図書館のあり方は多様化しており、その地域の特色や課題等に基づき、必要な機能・サービスを備えた図書館とする必要があります。

表 18 多機能型図書館の事例

ぎふメディアコスモス／岐阜県岐阜市
<ul style="list-style-type: none"><li>● 「<b>知の拠点</b>」「<b>絆の拠点</b>」「<b>文化の拠点</b>」からなる複合施設<ul style="list-style-type: none"><li>- 「知の拠点」となる市立中央図書館、「絆の拠点」となる市民活動交流センター、多文化交流プラザ、「文化の拠点」となる展示ギャラリー等からなる複合文化施設。1階に市民活動交流センター、多文化交流プラザ、展示ギャラリー等、2階に図書館が位置</li><li>- 図書館は「こどもの声は未来の声」という言葉を大切にし、ざわめきを許容する、居心地の良い滞在型図書館を創出</li></ul></li><li>● <b>シビックプライド醸成に向けた取組</b><ul style="list-style-type: none"><li>- 地域に対する市民の誇りであるシビックプライドの醸成に取り組み、1階に地域の魅力を伝えるコンテンツに端末を通じて触れることができるシビックプライドプレイス、2階に地域に関する本を横断的に集めた特集本棚であるシビックプライドライブラリーを配置</li></ul></li></ul>

- 地域文化に通じた様々な分野に関わる人々を招き、地域にまつわる様々な事柄を学ぶ「おとなの夜学」を開催するなど、市民のシビックプライドの醸成のための拠点としての活動を実施

表 19 特化型図書館の事例

札幌市図書・情報館／北海道札幌市
<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>都心に集う人々をターゲットにした特化型図書館</b></li> <li>- 都心部の再開発地区に整備された、札幌文化芸術劇場、札幌文化芸術交流センター、札幌市立図書・情報館からなる複合施設。図書・情報館ではイベントに合わせた資料展示等、併設施設との連携事業も実施</li> <li>- コンセプト「はたらくをらくにする」を基に、仕事や暮らしに関する調査相談・情報提供に特化した「課題解決型図書館」</li> <li>- 3つのエリア「WORK」「LIFE」「ART」に分け、分野ごとに選書された資料を工夫されたテーマのもと配架。館外貸出を行わないことで、そこに行けば必ず新刊を含めた資料がある空間を創出</li> <li>- リサーチカウンターにおいてレファレンスや専門機関による出張相談窓口等を実施</li> <li>- 1階にあるサロンでは仕事や暮らしの役に立つセミナーを開催。その内容に合わせた展示等も隣接する展示エリアで実施。また、札幌・北海道の魅力発信のため、それに関する図書も配架</li> </ul>

表 20 まちのシンボルとなる図書館の事例

那須塩原市図書館みるる／栃木県那須塩原市
<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>駅前広場と、広場から屋内へ続く通路の活用</b></li> <li>- 駅前空間と図書館が一体となり、図書館の利用と街が繋がる新たな公共空間として整備。1階中央に駅前広場から続く屋内通路「みるる Ave」をつくり、まちを散歩しながら施設内を通る感覚で、広場と施設内のつながりを意図</li> <li>- 屋内通路と広場を一体的に活用したイベントを実施。音楽を演奏しながらの屋内通路から近くのまちなか交流センター「くるる」への誘導や広場での読み聞かせ、広場でのヨガ等といったプログラムを行い、駅前を通りかかる人を施設内に呼び込み、にぎわいや交流を創出</li> <li>● <b>利用者の興味を引き、本との偶然の出会いを生み出す</b></li> <li>- 1階の書架には本の中の印象的な一文を引用した「アフォーリズム」を掲出するほか、ブックディレクターが選書した資料や関連するモノを展示し、本やその関連したものに興味を引くような工夫がなされている</li> </ul>



表 21 図書を通じて様々な活動と連携する事例

米百俵プレイス ミライエ長岡 互尊文庫／新潟県長岡市
<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>市の特色に合わせた場所づくり</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 米百俵の精神のもと、市内4大学1高専が持つ知見と人材、ものづくり企業の集積を活かし、産業振興と人材育成を進める「長岡版イノベーション」の拠点、次世代を担う若者や起業家等幅広い世代が集い、交流する場として米百俵プレイス ミライエ長岡を整備</li> <li>- ミライエ長岡内に移転した、市立図書館の分館である互尊文庫は「毎日にひらめきをプラス」をコンセプトに、エリアテーマ「くらす」「はたらく」「ひらめく」と15のテーマに基づきテーマ別配架を実施</li> </ul> </li> <li>● <b>利用者のイノベーションに関する活動を施設全体で支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- ミライエ長岡内にイノベーションに関する活動を支える諸室・スペースを設置</li> <li>- ものづくりラボは、デジタル工作機器を備え、誰もが自由に、気軽にもものづくりを楽しむことができる、地域に開かれた部屋</li> <li>- イノベーションサロンは、リモートワークや打合せなどビジネスで利用できるほか、コーディネーターが業種や専門が異なる人と人をつなぐことでマッチング、課題解決の支援、起業・創業を推進</li> </ul> </li> </ul>

## 2-4 課題整理

八女市の概況と特色や、市立図書館及び本館の現状、他自治体等の比較を踏まえ、課題を表 22 のとおり整理します。

閲覧スペースや駐車場不足、蔵書の不足などの施設の側面からの課題、利用促進などのサービス・利用面での課題に加え、分館が多いことや、歴史的魅力のある地域であることなど、八女市立図書館ならではの特色を活かしていくことも課題となります。

さらに、現在は、IC タグシステムによる蔵書管理やセルフによる貸出には未対応です。本計画策定を契機として、IC による蔵書管理及び貸出・返却サービスへの対応も、改めて検討が必要です。

先進的な図書館事例でも見られるように、現在の図書館のあり方は多様化しています。これらの課題や事例を踏まえた上で、八女市に求められる図書館とは何かを検討し、コンセプトを策定する必要があります。

表 22 現状を踏まえた課題

課題		内容	関連する【取組の方向】
施設面	閲覧席・学習スペースの不足	本館では座席数 24 席、新聞スペース 12 席であり、利用ニーズに対して席数が少ない	「いや～、助かった！」を増やそう／「はあー、ほっとする！」を増やそう
		夏休みなどの長期休暇やテスト期間中は席が不足している	「いや～、助かった！」を増やそう
	駐車場の不足	駐車場が狭く、思いやり駐車場から玄関までの距離が遠い	「はあー、ほっとする！」を増やそう
	蔵書数の不足	必要な蔵書数について、基準値や他自治体平均値を下回っており、人口規模に対して蔵書数が不足している	「いや～、助かった！」を増やそう
	バリアフリー等への対応	書架間や施設内での車いす移動が困難な状況である	「はあー、ほっとする！」を増やそう
	子育て支援機能の不足	授乳室の設置が無く、事務室内の応接室を利用している	「なんか、面白そう！」を増やそう／「いや～、助かった！」を増やそう
		おはなし室など、子どもたちへの読み聞かせやおはなし会が開催できるスペースが不足している	「なんか、面白そう！」を増やそう
	バックヤード作業スペースの不足	カウンター、職員の事務・作業スペースが不足している	「いや～、助かった！」を増やそう
		ボランティア活動に必要な作業スペースがない	「どうも、ありがとう！」を増やそう
		本館の閉架スペースが狭く、本館機能が十分に発揮できていない（現在は、旧下辺春小学校に歴史資料、地域資料、新聞等を保管。閲覧依頼の際は現地まで取りに行く必要があり、管理・運営上不便が生じている）	「いや～、助かった！」を増やそう

サービス・利用面	利用促進	情報発信やイベント実施等、利用につながっている活動を継続する	「なんか、面白そう！」を増やそう
		現在図書館を利用していない人へのアプローチなど、さらなる利用促進を図る	「なんか、面白そう！」を増やそう
		若い世代の利用が減少傾向にあり、利用を促す工夫が必要	「なんか、面白そう！」を増やそう／「はあー、ほっとする！」を増やそう
	イベントや企画展示の継続	意欲的に実施されているイベントや企画展示を継続する	「へえ～、そうなんだ！」を増やそう
特徴	機能の相互利用（相乗効果）	来館目的に応じたフロア構成だが、本を借りた人が偶然資料室を訪れるなどの相互利用が生まれにくい	「なんか、面白そう！」を増やそう
	分館間のネットワーク化	分館のサービスネットワークを活かす	「いや～、助かった！」を増やそう
	歴史ある図書館としての情報発信	直木賞作家や文化勲章受章者を多く輩出しており、明治38年に開館した歴史ある図書館であり、地域の歴史を市内外に発信する	「まちの記録」を増やそう
その他	ICタグシステムへの対応	ICタグシステムによる蔵書管理やセルフによる貸出サービスに対応していない	「いや～、助かった！」を増やそう

## 3 市民の意見聴取

---

### 3-1 市民アンケート

#### (1) 調査の目的

本調査は、「八女市立図書館本館整備基本計画」の策定にあたり、現利用者の利用実態やニーズの把握及び未利用者（潜在的な利用者層）の意見を聴取することで、計画策定の基礎資料とするために実施しました。

特に、図書館の利用層として、10代の若年層の意見の収集に注力しました。

#### (2) 実施概要

調査期間：令和5年7月18日（火）～令和5年9月7日（木）

調査対象：八女市民及び八女市通勤通学者、八女市立図書館利用者層

調査方法：Web アンケート、紙アンケート（無記名）

#### (3) 回答数

1,423

#### (4) 調査結果概要

- ・ 全体で1,423と多くの回答が集まりました。特に10代の回答数981人と八女市の10代人口の20%近い回答が集まりました。（国勢調査参照）
- ・ 図書館の利用経験率は若年層10-20代が低く60-70%程度と低い状況です。
- ・ 図書館の利用理由について、30代以上は「本やDVD等の貸出や返却のため」が最も大きいですが、10-20代は「図書館で読書をするため」や「勉強や仕事をするため」など、居場所として図書館需要があります。また、30代は子どもと過ごす場所としての利用もあります。
- ・ 一方で、図書館未利用者が図書館を利用しない理由は主に「本を読まないから」が最も多いです。
- ・ 今後の利用拡大に向けて「Wi-Fi」「駐車スペース」「カフェ」「閲覧席や学習スペース」「資料の内容と量」についてのニーズが多くなりました。「資料の量」については全世代で共通して要望の大きな内容となりました。また、30代では子育て利用のニーズが特に強くなりました。
- ・ どんな体験が重視されると市民の「くらしを豊かにする」図書館になると考えるか、という設問では、各世代共通でほぼ40%以上の方々が「カフェスペースで珈琲やお茶を飲みながら本を読んだり談笑ができる」をあげており、10代以外の世代では最も大き

な意見が集まりました。10代では「無料 Wi-Fi 環境等でインターネットが使いやすい」が最も大きな意見として上がりました。30代では子育てニーズから特に「乳幼児や児童が十分な広さの専用スペース（授乳室、おはなし室 など）で楽しく過ごせる」や「スペースによっては乳幼児や児童が走り回ることもできる」に強い意向が集まり、図書館に居場所としての機能を求める意向が伺えました。

- ・ 「やめし電子図書館」については、10-20代の利用経験率が10%を下回っていた一方で、30代以降では20%前後の方々が利用経験を持っていました。
- ・ 事前に想定して選択肢内に含めていた図書館の充実のためのサービスアイデアの中で、結果として回答されたアイデアが80件、さらに追加で自由回答等にて記載いただいたアイデアが92件あり、当アンケートにおいて合計172件の図書館に関わる市民アイデアを収集することができました。

## 3-2 図書館司書アンケート

### (1) 調査の目的

本調査は、「八女市立図書館本館整備基本計画」の策定にあたり、現在八女市立図書館の運営に関わっている司書への意見を聴取することで、計画策定の基礎資料とするために実施しました。

### (2) 実施概要

調査期間：令和5年8月25日（金）～令和5年9月10日（日）

調査対象：本館司書 7名 分館司書 6名（計13名）

調査方法：記述式の紙アンケート（無記名）

### (3) 調査結果概要

- ・ 図書館のあり方や提供すべきサービス内容、運営の考え方など多様な意見が集まりました。
- ・ 特に図書館のあり方については、あらゆる人にひらかれて、今後の半世紀の間の八女市に寄り添い、行きやすく利用しやすい場所をつくりたいという声が多く見られました。
- ・ 図書館が単なる本を貸し借りする場所でなく、他の施設とも連携しながら、市民の交流の機会や地域の情報の集約と発信等の様々な役割を担うべきこと、それに合わせた体制をつくるべきであることなどの声が強くなっていました。
- ・ また、八女市の地域性を大事にしたいという想いが多くの方に見られました。
- ・ 具体的な図書館サービスに関わるアイデアが145件集まりました。

### 3-3 市民ワークショップ

#### (1) 調査の目的

本ワークショップは、「八女市立図書館本館整備基本計画」の策定にあたり、幅広い市民、利用者層からの図書館に関わるサービスアイデアを取り入れるために実施しました。

#### (2) 実施概要

実施日時：令和5年9月16日（土） 14-17時

対象：八女市民及び八女市通勤通学者、八女市立図書館利用者層

#### (3) 参加者

合計36名

(図書館との関わりがある方もない方も広く募り、小学生から70代までの幅広い世代にバランスよく参加いただきました。)

#### (4) 実施結果概要

- ・ 基本方針の6つの取組みの方向に合わせてテーブル（チーム）を6つに分けて、それぞれの切り口でアイデア出しを行いました。テーブル（チーム）は、参加者の希望も踏まえながら、10代から60代以上までの幅のあるメンバー構成になるように編成しました。
- ・ カードなどを用いた方法で、アイデアが出しやすい空気を醸成し、幅広い年代層が気軽に意見を出し合える場作りを行いました。ワークショップ後に実施した満足度アンケートでも市民の満足度は非常に高く、皆が意見を出しやすい状況であったことが伺えました。
- ・ 今後の図書館のサービスの検討や実装に当たっても、市民参加型で相互に助け合いながら、主体的に具体化していきたいという意向が多く集まりました。
- ・ 具体的な図書館サービスに関わるアイデアが246件集まりました。

※ 市民アンケートの詳細な調査結果、及び各アンケートやワークショップによって集まった市民の図書館サービスアイデア一覧は、巻末資料としています。

## 3-4 市民意見のまとめ

### 3-4-1 考察

市民の意見全体を通じて、世代別・目的別の利用状況や利用意向の違いが明確になりました。特に図書館に求められる役割が「本の貸し借り」等に加えて、若年層は読書や勉強（仕事）の場所、30代は「子どもと過ごす」場所など、時間を過ごす場所としての利用意向が大きいということが読み解けました。市民みんなに開かれた場であることを目指す上で、バリアフリーに関しても強い意見が集まっていました。

また、今後に向けた要望について「駐車場」に加えて「Wi-Fi」に関わる要望や「カフェ」に関わる要望がアンケートでもワークショップでも大きくなっていました。

これより、図書館に求める要素として、気軽に立ち寄れることに加えて、寛いだり交流したりしながら、自分たちらしく時間を過ごす居場所としての要望が強いことがここでも伺えました。

上記を踏まえると、前述している基本方針「くらしを豊かにする」図書館を実現するための6つの取組の方向性の中でも、「居場所」に関わる方針である『「はあー、ほっとする！」を増やそう』が非常に重要なテーマであり、全体のサービス構想の上での重要な土台として考えたいと思います。

加えて、今後に向けた「中高生の利用拡大」に当たっては、他世代が想定していた「学習スペースの充実」以上に「中学生・高校生向けの本や雑誌を増やすこと」について当事者たる10代の意向が集まっていました。さらに、今後の利用拡大のために「充実して欲しいもの」としても「資料の量」がすべての世代で共通して約30%以上の意向が集まっていたことから、「資料収集（選書）」といった図書館の「基礎的なサービス」が、あらゆる世代において当然に重要であることがわかります。これは基本方針の6つの中では『「いや～、助かった！」を増やそう』に関わるサービスになり、上記『「はあー、ほっとする！」を増やそう』と同じく、サービス構想の上でのもう1つの重心になると考えます。

そして、ワークショップにおける、あるべき図書館の姿やサービスをどうかたちにしていくべきかという対話の中では、多様な市民が主体的に関わり、ボランティアはもちろん様々な方法で参加しながら構想し、実現していきたいという声が多く集まっていました。これは基本方針の6つの中では『「どうも、ありがとう！」を増やそう』に関わる内容になります。この方針も重視すべき要素の1つになると考えられます。



### 3-4-2 サービスアイデアの分類

アンケートやワークショップの実施によって、市民から総計 563 の図書館のサービスに関わるアイデアが集まりました。これらを 6 つの基本方針をもとに分類を進めるとともに、特に意見として大きかった内容を中心に集約し、それぞれに中分類を設定しました。

上位計画をもととして設定した基本方針を枠組みとして八女市立図書館本館のあるべきサービスの検討を進めていくにあたり、具体的な市民アイデアを選定していくとともに、多様な市民の意見から生まれた中分類を軸として考案していくことが特に重要であると考えます。



図 11 サービスアイデアの分類

## 4 図書館本館のコンセプト

### 4-1 ここまでの整理とコンセプトの位置づけ

#### 4-1-1 本計画の位置づけと基本方針について

コンセプトを検討する前に、これまで述べてきた内容を振り返ります。

本計画の位置づけ、上位計画との関連も考慮し、「くらしを豊かにする図書館づくり」の6つの取組の方向感の関係は、図 12 のようになります。

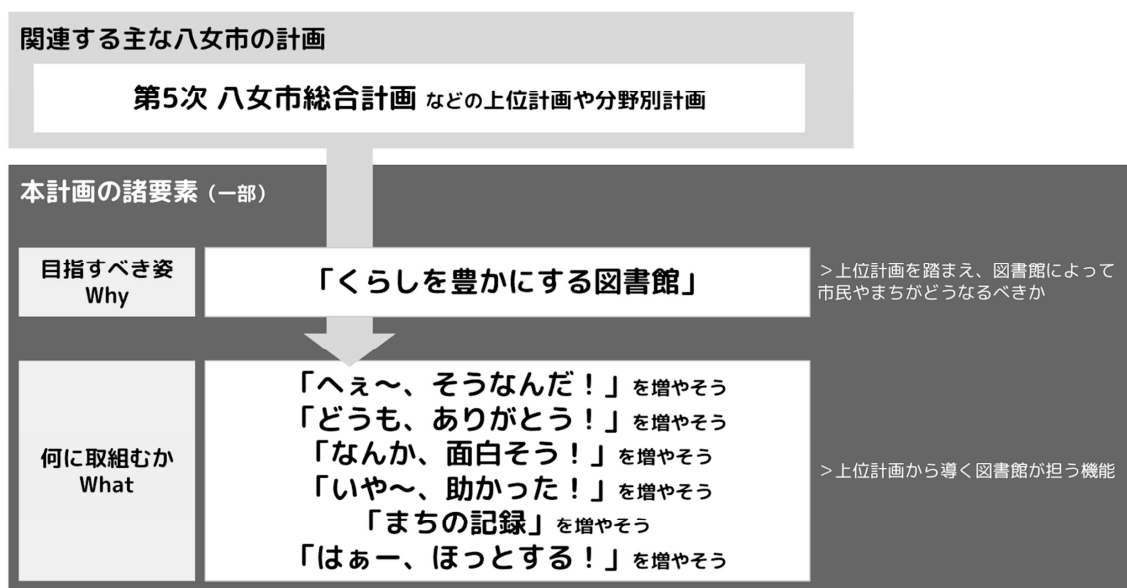


図 12 目指すべき姿と6つの取組の方向性

#### 4-1-2 前提条件と課題

これらの6つの取組の方向と、八女市立図書館の現状や、他自治体との比較などを通じて整理した課題を紐づけると図 13 のようになります。

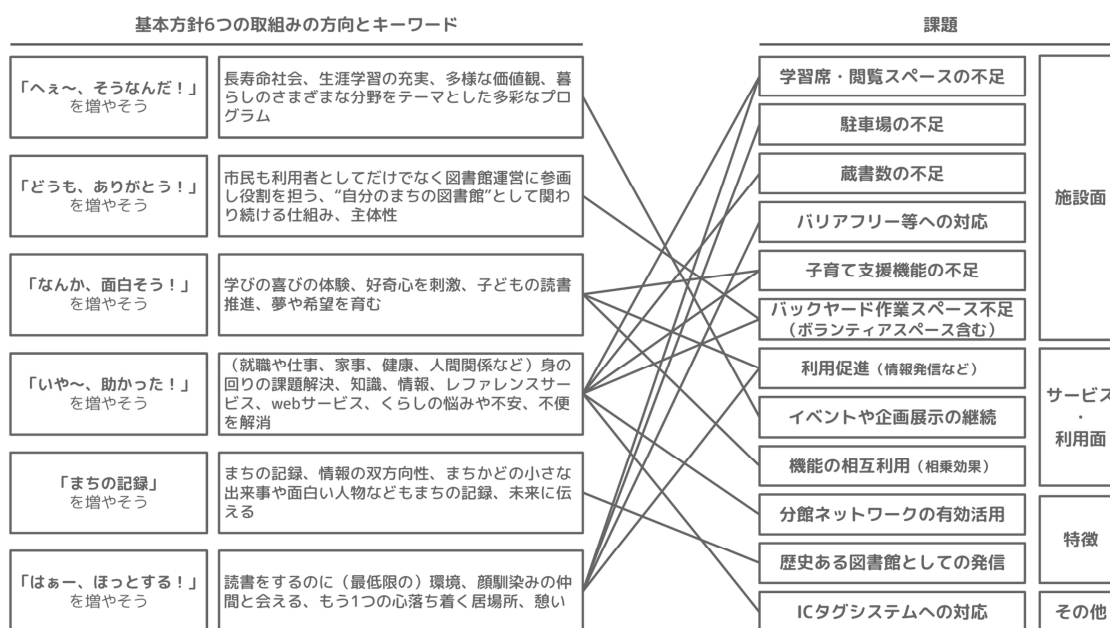


図 1 3 6つの取組の方向と課題

#### 4-1-3 アンケート、ワークショップでの論点整理と考察

アンケート、ワークショップでの意見やアイデアを統合し、整理を行うと、6つの基本方針においては居場所、(図書館の)基礎的なサービス、市民参加といった要素を重点的に捉えるべきであると考えられます。

まず、「居場所」に関わる取組方針である『「はあー、ほっとする！」を増やそう』を全体の活動の土台として位置づけます。

次いで「知識／情報へのアクセス」など図書館の基礎機能に関わる取組方針である「いや～、助かった！」を増やそう と、市民参加に関わる取組方針で利用者の主体的な参加／運営を推進する「どうも、ありがとう！」を増やそう を様々な活動を推進するための主要素として位置づけます。

また、この2つは「居場所」づくりの観点でも、「知識／情報へのアクセス」の経験を通じて「助かる」経験や、図書館へ関わりの経験を持つことで「愛着」が生まれることで「居場所」としての図書館をより深める機能も担うものです。

他の要素も含めて、アンケートやワークショップから出たアイデアを元として、6つの取組方針を解釈した上で再整理を行い、それぞれの位置づけや関係性を図 1 4 の3層構造で整理を行います。

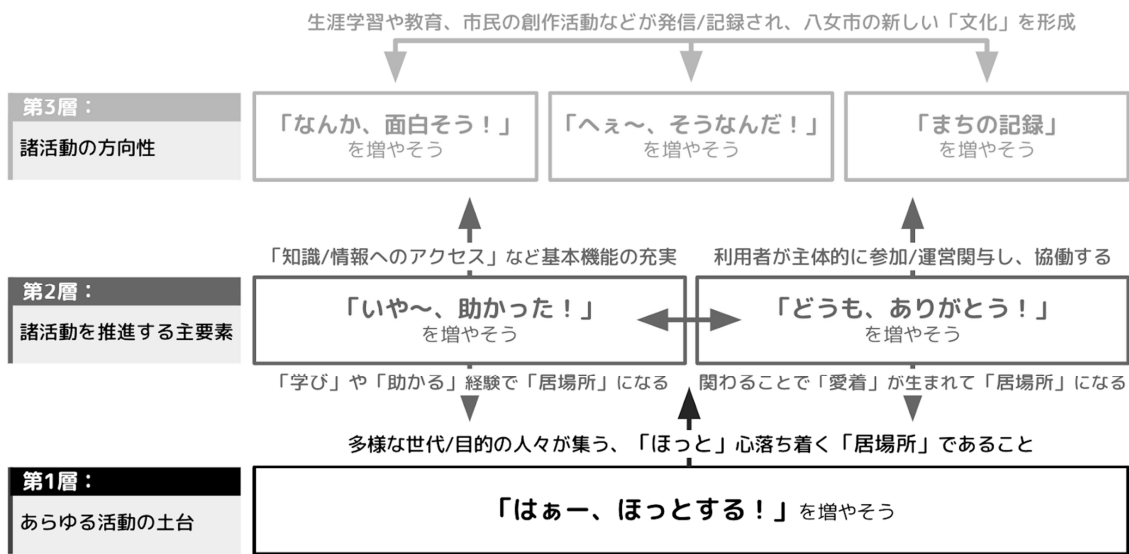


図 14 6つの取組方針の位置づけ・関係性

#### 4-1-4 コンセプトの果たす役割

「第5次八女市総合計画」等の上位計画をもとに整理されたゴールである「くらしを豊かにする図書館」と、そのために担うべき取組である6つの方針を、どのような方法、あり方で実現していくかがこれから述べる「コンセプト」のはたす役割です。

コンセプトはこれからの八女市立図書館本館の特色づけや方向づけを行うための要素であり、サービス、設計、意匠などの全体に一貫させるキーワードとなるものです。

以上を踏まえて、次項より八女市立図書館本館のコンセプトについて記述します。

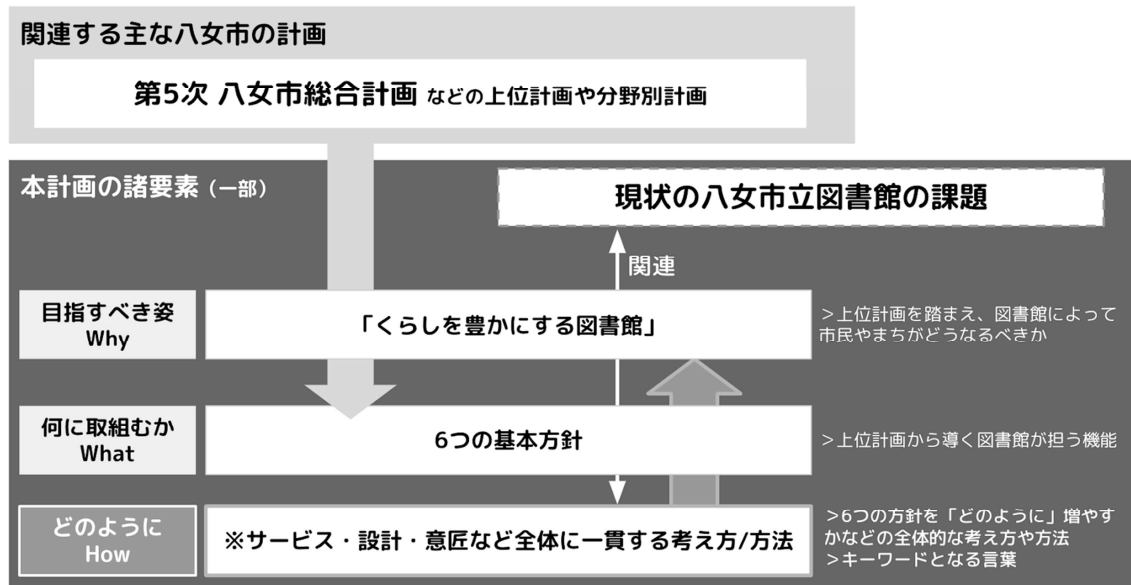


図 15 コンセプトの果たす役割

## 4-2 八女市立図書館本館のコンセプト

# 新芽のように

### 4-2-1 八女市の新たな可能性を育てる「居場所」

これまでの検討の過程で浮かび上がってきたのは、新しい「居場所」としての図書館の必要性でした。

昨今、図書館という場は単なる本の貸し借りを超えて様々な社会的な機能を担う場所となり、国内でも多くの事例が生まれています。一方、八女市の図書館はスペース等の問題によって、読書したい人たちすらも時間を過ごすことが難しい場所になっており、アンケートやワークショップの中でも「居場所」としての図書館を渴望する声が多くありました。また、駐車場不足等のアクセスの問題を指摘する声も強くありました。

目指すのは様々な目的を持つ人はもちろん、無目的な人でも気軽に集え、様々な年代の人たちが「ほっとする」居場所です。

この新しい居場所は、地域に新しい人の流れをつくり、地域の次の時代に向けた変化が芽吹く機会をもたらしめます。芽吹いた可能性が、安心して自由闊達にすくすくと育つ、そんな土壤となるような居場所をつくるため、「新芽のように」という言葉に「はじまり」の意味を込めています。

### 4-2-2 みんなが主体者として「共に育む」場

近年、人々にふれあいの機会を提供する居場所の存在に対し再評価が進んでいます。共助（インフォーマルサービス）を育み、関わりを広げることが大切だとあらためて認識されているためです。

このような観点から、利用者が単なるサービスの受け手であるだけでなく、様々なかたちで図書館に参加、関与することを想定していく必要があります。

図書館が単なる奉仕活動に留まることなく、市民がさまざまな人たちに読み聞かせや朗読会をする、得意なことを教えあう講師になるなど、多様な体験機会の提供を主体的に楽しめる場所と機会をつくります。また、市民みんなが図書館を「自分の居場所」として愛着を感じられるためにも、本の貸し借り以外に気軽に図書館に関われる仕組みや仕掛けを、図書

館内はもちろん外側にも用意し、まちと図書館のつながりを強化していきます。

この図書館は社会参加と助け合いのコミュニティプラットフォームとしての機能も担いながら、共につくり育てる図書館として、時間をかけて市民みんなの大切な場としていきます。

八女茶の茶づくりは、いち産業や労働にとどまらない地域協働や共生のシンボルであり、家族や地域みんなが参加し大切に育て収穫する、関わるみんなを豊かにするものです。

毎年毎年お茶の新芽を皆で大切に育てていくように、あるいは八女茶という地域資本を数百年かけて育ててきたように、「新芽のように」はみんなと一緒に場を育み、これからの八女市の歴史をつくっていくことを想起させる言葉です。

#### 4-2-3 「くらし」を豊かにする図書館

八女市の伝統的資産の多くは、芸術や宗教に根ざしたものではなく、市民のくらしや営みの中から生まれているものです。八女茶の生産にも毎年季節を巡りながら繰り返される循環の構図があり、それは地域に根付く「くらし」文化そのものです。

これからの図書館も市民の毎日の「くらし」の中に根付き、「くらしを豊かに」する存在を目指しています。市民一人ひとりの小さな「くらし」の中からこそ、文化や伝統が生まれ、地域の未来の豊かな歴史がかたちづくられていきます。

より多くの市民一人ひとりの「くらしを豊かに」するためにも、この図書館はまちに関わり、溶け合い、浸み出していきます。図書館の内にも外にも様々な機会をつくり出していきます。

図書館がつくる多様な体験機会によって、心が元気になり、成長する喜びを感じる。そして、その喜びが「くらし」を彩り、人生の幅を深めていくこと。この図書館は「くらし」の中に、新芽の季節のようなわくわくとした気持ちをもたらし、関わる人がそれぞれの楽しみを見つけ、また何かしたい、また行きたいと感じる瞬間が自然と増していきます。

そして特に、未来の八女市、社会を担う、子どもたちの発想力や好奇心、楽しむ気持ちや安心感、協創や共生のこころを育むことが何よりも大事だと考えています。

子どもたちの好奇心の芽吹きを生み、生涯学習を推進することは図書館にとって最も大切な役割です。八女市の中で未来を担う子どもたちにとって、かけがえのない居場所になることを目指して、様々な工夫や体験の機会を用意します。

歴史や伝統から未来につながる大きな時間軸はもちろん、お茶を飲んで「ほっと」一息するようなひとときを含む日々の「くらし」の循環を捉えて、地域とともに発展的に成長していく。

「新芽のように」は様々な時間や「くらし」のイメージを広げて、いつでも前に進み始めるための言葉です。

新たな可能性を育てること、みんなが主体としてともに育むこと、「くらし」を豊かにすること、これらの視点から八女市立図書館本館を整備し、体現していくため、「新芽のように」をコンセプトとして掲げます。ここから先の本計画のサービスの立案等も、このコンセプトを発展的に解釈し、検討を進めていくこととします。

## 5 サービス構想

---

### 5-1 サービス内容の検討

#### 5-1-1 サービスの基本的な考え方

ここからは「暮らしを豊かにする図書館」の実現のために提供するサービスについて、コンセプト「新芽のように」を解釈した以下の3つの切り口から検討します。

- ① **【居場所としての図書館】**多様な世代/目的の人々が集い合える、「八女市の新たな可能性を育てる居場所」をつくること
- ② **【基礎的な図書館サービス】**「知識/情報へのアクセス」など「図書館としての基礎的なサービス機能」を充実させることを通じて、まちの中にたくさんの「知の芽、好奇心の芽、学びの芽などを新たに育み続ける」こと
- ③ **【市民関与機会の拡大】**市民みんなが育む図書館となるように、みんなが自分の「居場所」と感じられるように、図書館内での本の貸し借りやレファレンスサービス以外にも、図書館が八女市のまちの暮らしに浸み出し、まちの暮らしが図書館に入り込むような積極的な相互関与の構図を目指して、図書館による「多様な関わりの機会」を拡大していくこと

上記の3点の切り口をテーマとして勘案の上で、アンケートやワークショップなどから生まれた市民発案の約500のサービスアイデアや、他自治体等との比較検討を元にした課題、検討委員会でのディスカッション等をサービス検討の素地とし、実現可能性を制約条件として一部考慮しながら、以下に基本方針の取組の6つの方向性で整理し、サービス内容をまとめます。



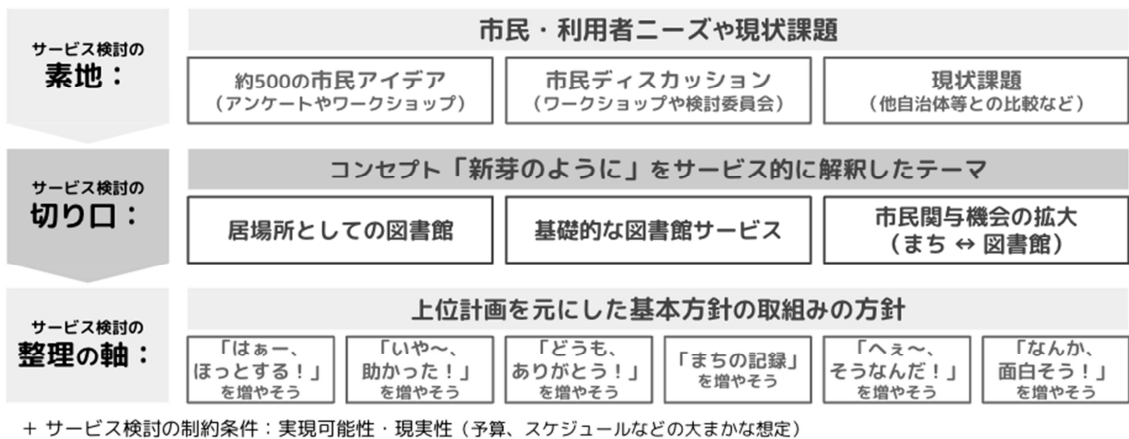


図 16 サービス検討における前提

### 5-1-2 検討すべきサービス内容の考案

以下の図 17（再掲）の第1層から順番にサービスの整理を展開します。

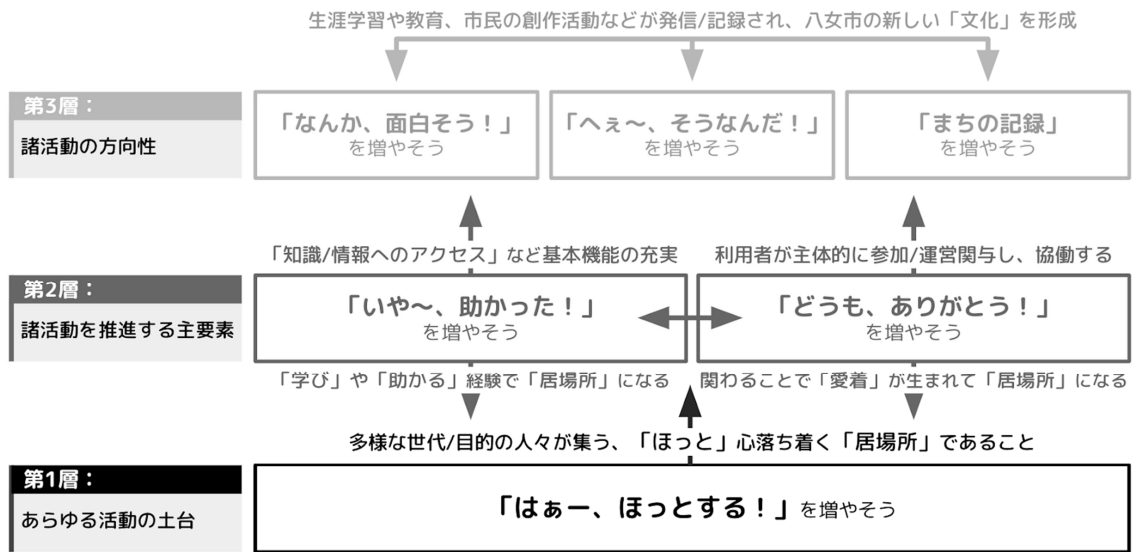


図 17 6つの取組方針の位置づけ・関係性

(1) 「はあー、ほっとする！」を増やそう に関わるサービス

この方向性に直接的に関わる課題は図 18です。

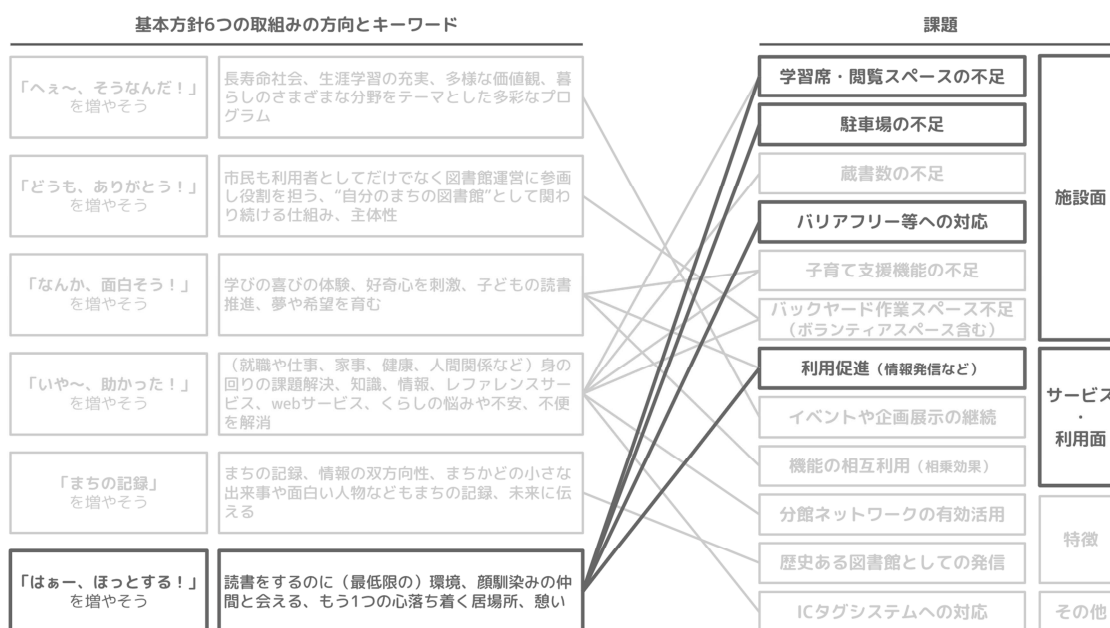


図 18 「はあー、ほっとする！」を増やそうに関わる課題

また、市民アイデアを元にした中分類は図 19 になります。

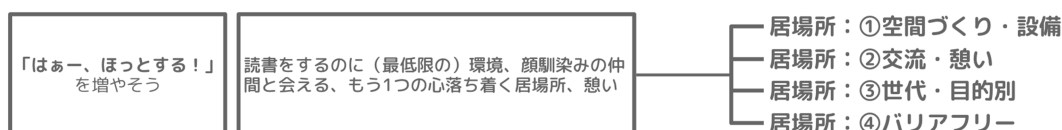


図 19 「はあー、ほっとする！」を増やそうの中分類

これらを踏まえて、サービス内容を以下のように考案します。

- ・ 自治体規模と蔵書目標に合わせた適切な広さの確保。特に閲覧席・学習スペースや駐車スペースを十分なレベルまで拡充
- ・ バリアフリーへの配慮(令和5年6月策定の「福岡県読書バリアフリー推進計画」に準じた推進)
- ・ Wi-Fi 環境の整備
- ・ 市民が多目的に利用が可能な交流スペースを用意
- ・ 市民の活動諸室と連動した配架計画と書架(近くに押し付けがましくない範囲で活動のインスピレーションとなる棚づくり)
- ・ 各活動スペースと開架エリアをシームレスにつなぐ(本の回遊性を保ちつつ、居心地のよい読書環境を提供)
- ・ カフェにも展開可能な厨房などのスペースや給茶機のある飲食可能スペースの設置(カフェを市民団体、企業等が月替わりなどで運営できる仕組みの検討)

- ・ ゆったりした閲覧席、集中して学習できるスペース、会話が許容されるスペースなど、多様な目的で訪れるそれぞれの人が過ごしやすい空間づくり
- ・ 館内に BGM を流す音響設備
- ・ 全体にコンセプト「新芽のように」を解釈した空間設計
- ・ 図書館がまち中に浸み出すように「はあ～ほっとする」居場所をつくれる椅子やテーブルと本のセットの貸し出し

(2) 「いや～、助かった！」を増やそう に関わるサービス

この方向性に直接的に関わる課題は図 20 です。

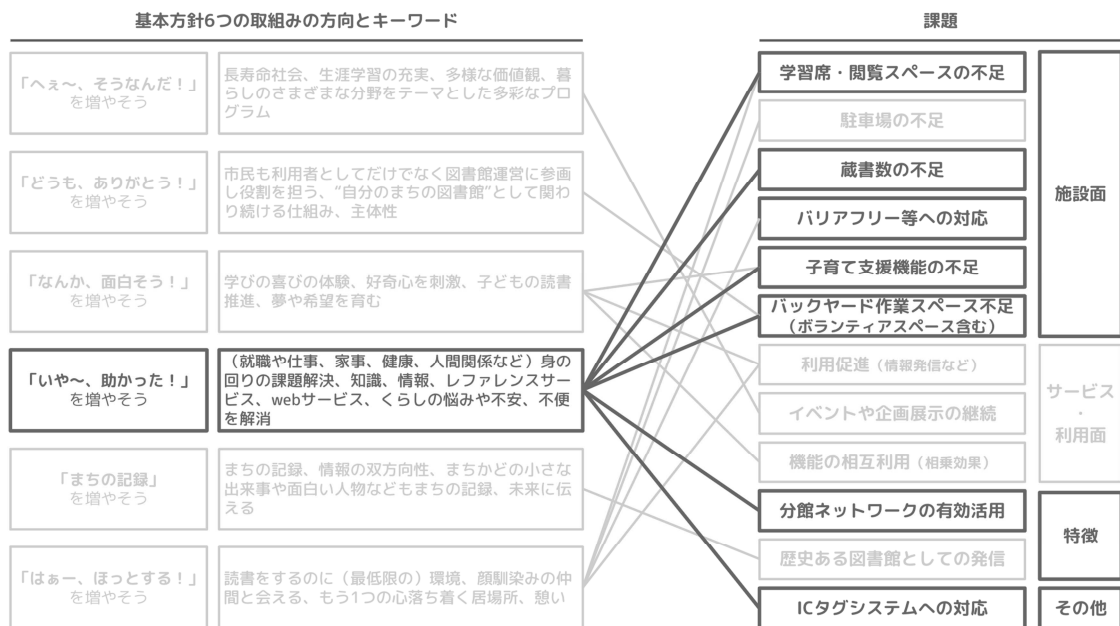


図 20 「いや～、助かった！」を増やそうに関わる課題

また、市民アイデアを元にした中分類は図 21 になります。

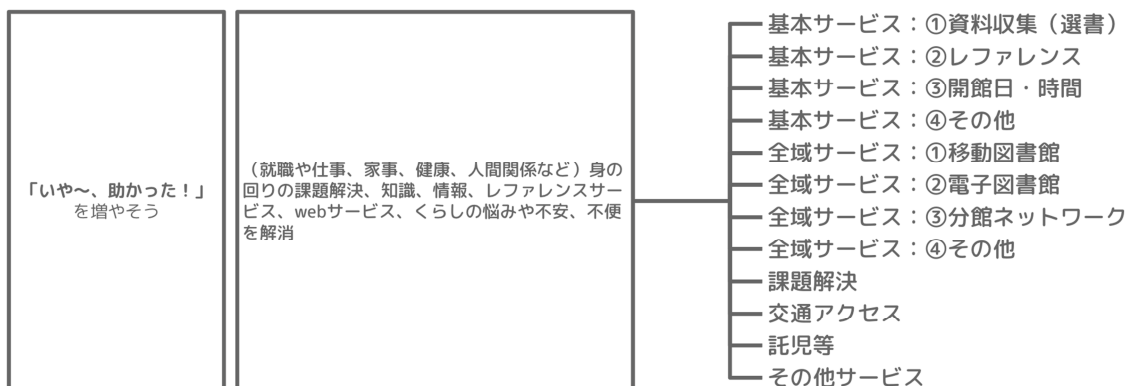


図 21 「いや～、助かった！」を増やそうの中分類

これらを踏まえて、サービス内容を以下のように考案します。

- ・ あるべき規模に蔵書目標数を拡大
- ・ 資料については特に①児童向け／若者向けの図書、②専門書（特に個人入手が困難な本やお茶、宇宙など八女市に関連する本 など）を拡充し、それに合わせた児童室やコーナーなどを設置
- ・ レファレンスサービスを前面に出して強化する。具体的には①カウンターをより気軽に話しかけやすいかたちで設置、②認知度向上施策の実施、③オンラインレファレンスで分館から本館、本館から市役所や専門機関へつなぐことなどを想定
- ・ 仕事終わりの時間などに使いたいというニーズにあわせた開館時間の調整を検討
- ・ 学校等との連携の強化（団体貸出、図書館外での図書カード作成機会の拡大等）
- ・ 本館は市全体を統括する図書館として、蔵書のストックヤード機能（物流拠点）を持ち、サービスを統括し、選書や各館の資料バランスの調整等、市立図書館全体の方向性を打ち出す機能を持つことを基本とするが、分館はそれぞれ地域に根差した個性的なサービスを実施しているため、本館への整理は最小限とし、現状のサービスをなるべく継続するような方向で考える（各館のコンセプト整理は継続的に検討し、選書発注の方式等も再整備を行う）
- ・ 各エリアにおいても、空白地帯での返却 BOX 等の設置や移動図書館のコースなどの見直しを継続的に行う（また、本館に移動図書館のトラックヤード設置を検討）
- ・ 児童向けには、一定の頻度で各エリアから本館への巡回バスを検討
- ・ 乳幼児向けには、現在一部分館でも実施している託児サービスを一定頻度で実施することを検討
- ・ その他、市民が図書館の基礎サービスに対しても意見を出せる機会を拡大

### **(3) 「どうも、ありがとう！」を増やそう に関わるサービス**

この方向性に直接的に関わる課題は図 22 の通りです。

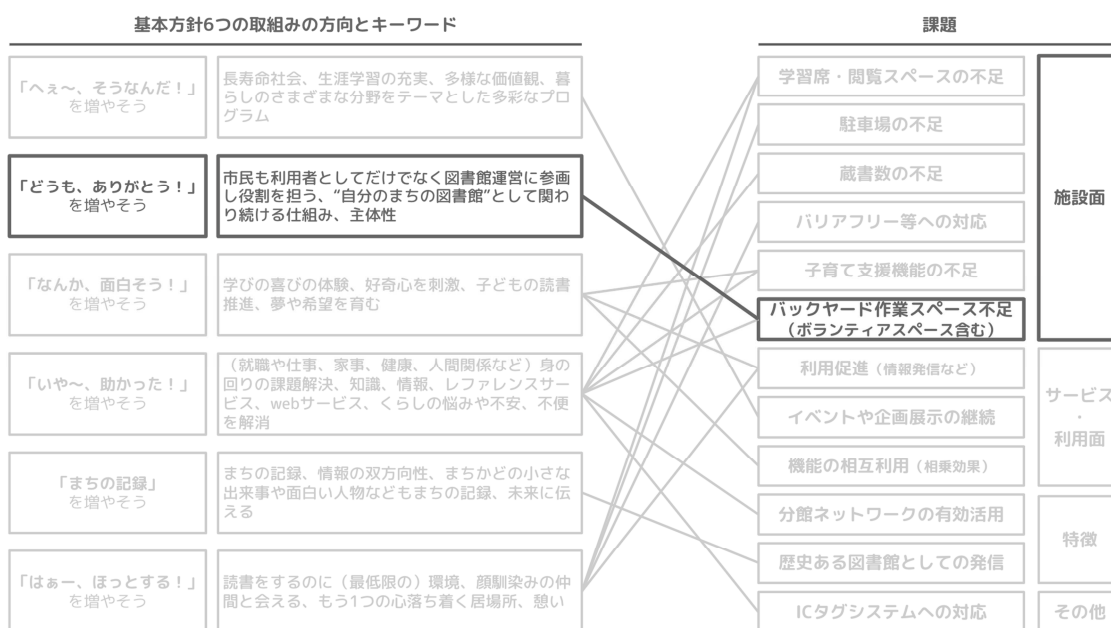


図 2 2 「どうも、ありがとう！」を増やそうに関わる課題

また、市民アイデアを元にした中分類は図 2 3 になります。

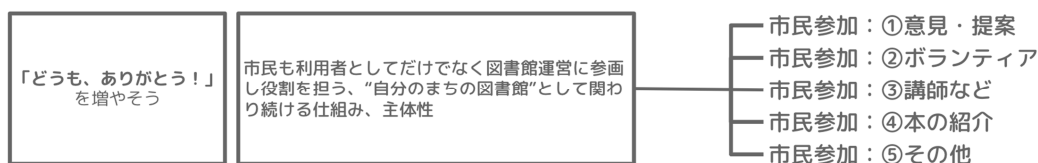


図 2 3 「どうも、ありがとう！」を増やそうの中分類

これらを踏まえて、サービス内容を以下のように考案します。

- ・ 継続的に市民の意見・提案を募る機会をつくることで、市民が図書館づくりを推進し、積極的に運営に関わり提案しやすい場づくりを実現
- ・ 自然に投票(選択)に関われる仕組みを館内に用意して、気軽な運営への意見収集や市民関与の機会を提供(例:本の返却ポストがYes/Noの二口に分かれていたり、ゴミ箱が投票箱になっていたり、開架の中に投票コーナーがあるなど)
- ・ 市民が気軽に意見を交わせる交流スペースや市民活動室の提供
- ・ 布絵本の制作や読み聞かせ等のボランティアスペースの設置
- ・ 人の紹介(推薦)を広く募りながら講師(市民主体の講座企画)の運営の輪を広げ、高頻度で開催することで実施と参加のハードルを下げる
- ・ 市民による参加型選書企画を常時開催
- ・ 市民が制作したものを、また別の人に届けることで、活動の循環を促す仕組みを検討

(例：ワークショップで制作したしおりを、本にはさんで利用者に貸し出す。市民が制作した映像やビジュアルを図書館広報に使う、など)

- ・ 世代を超えた接点づくり、特に子どもと高齢者との関わりの機会をつくる
- ・ コミュニティ通貨 ロマン (まちのコイン) の積極活用 (例：図書館の内外で市民による図書館への関与 (気軽なボランティアなど) によってロマンがたまり、たまったロマンを用いて、図書館本館内でドリンク無料など、様々なサービスを受けられる構図を検討)

#### (4) 「まちの記録」を増やそうに関わるサービス

この方向性に直接的に関わる課題は図 24 です。

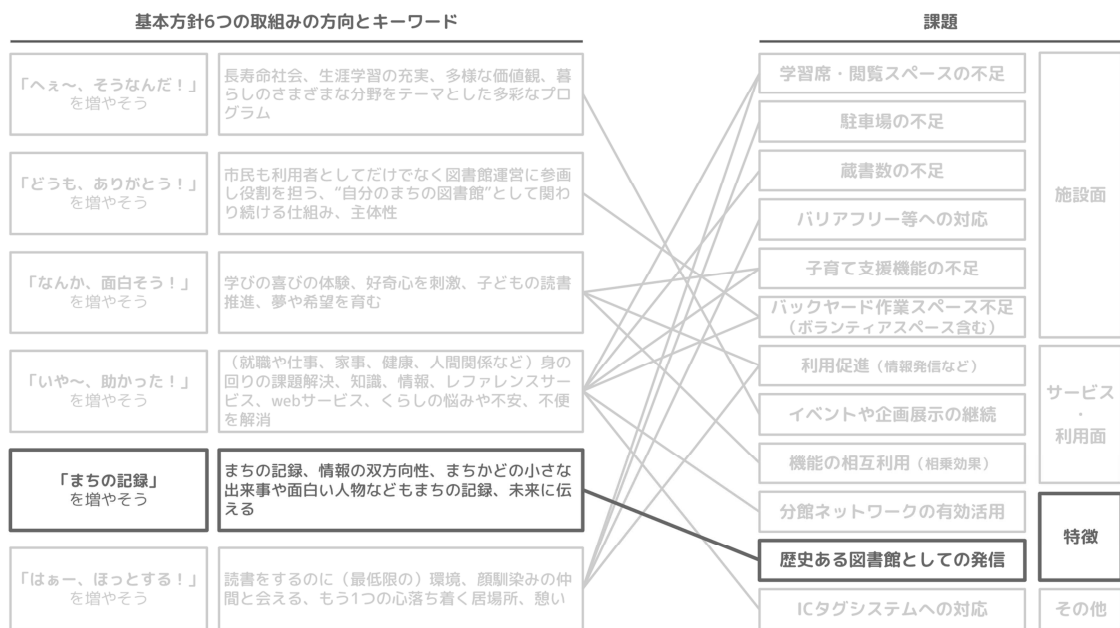


図 24 「まちの記録」を増やそうに関わる課題

また、市民アイデアを元にした中分類は図 25 になります。

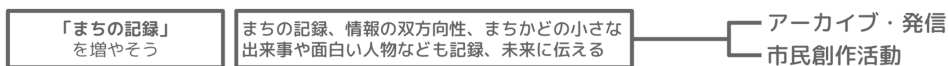


図 25 「まちの記録」を増やそうの中分類

これらを踏まえて、サービス内容を以下のように考案します。

- ・ デジタルを含むアーカイブを強化。映像はもちろん 3D データ等も視野に入れ、あらゆる方法、媒体で図書館に資料を記録・保管
- ・ 貴重資料は順次デジタル化し、市民に公開・提供 (市民が持つ写真等の資料もの収集も

想定)

- ・ 分館にもそれぞれのテーマで、各エリアの歴史等を様々な世代に感じさせられる展示を推進
- ・ 学校との連携を強化し、「副読本」と図書館の連動や、総合的な学習の時間での活用を促進することで、子どもたちの発表する様々な成果物を図書館に記録として残すことも検討
- ・ 市に関わる活動者の講演を企画運営し、その情報の記録を下記①②のように進める
  - ①基本的な考え方として、一番新しい情報は本でも SNS でもなく、活動の真ただ中にある人にあること。そのような方々をゲストに迎えた定期的なイベントの実施とその記録を行う
  - ②一方、これまで活動してきた人たちの知識は歴史の一部であり、そういった方々の講演も含めた活動を推進し、それらも記録する
- ・ 市内の様々なコミュニティ活動の記録を整備・集約する仕組みの検討
- ・ スタジオスペースに印刷機、映像編集などの記録を残すための機器や、ものづくりの環境を整え、市民活動を支える（これらは誰でも使えるように図書館職員やボランティアが使い方サポート等を行い、定期的に市民講師等によるワークショップ等の開催を想定)

(5) 「へえ～、そうなんだ！」を増やそう に関わるサービス

この方向性に直接的に関わる課題は図 26 です。

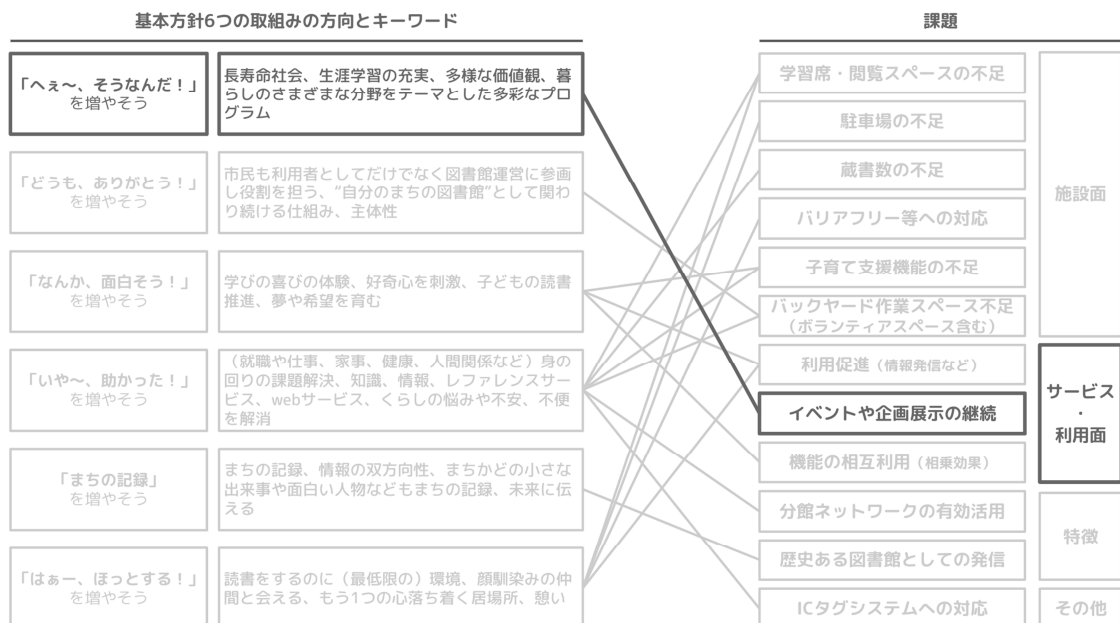


図 26 「へえ～、そうなんだ！」を増やそうに関わる課題

また、市民アイデアを元にした中分類は図 27 になります。

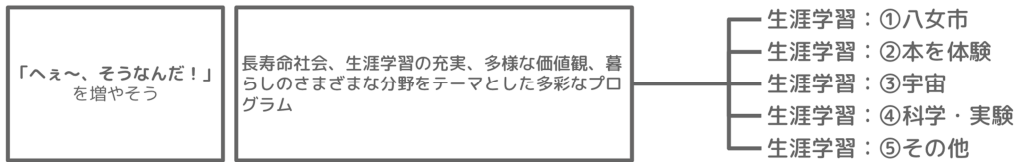


図 27 「へえ～、そうなんだ！」を増やそうの中分類

これらを踏まえて、サービス内容を以下のように考案します。

- 生涯学習に役立つ資料収集、気づきを与える配架、活動を促す諸室、定期的な講座やコーナーの設置等を市民参加型の方法で開催
- 講座やコーナーの初期テーマとして①八女市、②本を体感、③宇宙、④科学・実験を想定するが、テーマは市民アイデアを持続的に収集して拡大、更新、管理運用していくことを想定
- 学校等と連携して継続的にテーマを集め、若年層の来館のきっかけをつくる
- 移動図書館にも、このテーマや地域文化に関わるモノを乗せて巡回することを検討

(6) 「なんか、面白そう！」を増やそう に関わるサービス

この方向性に直接的に関わる課題は図 28 です。

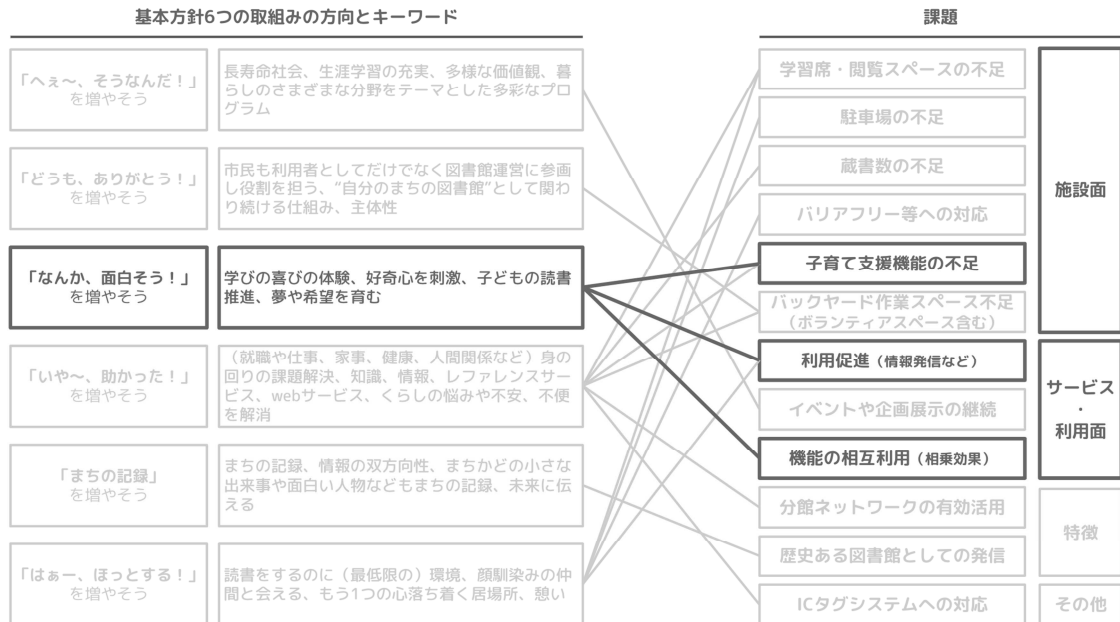


図 28 「なんか、面白そう！」を増やそうに関わる課題

また、市民アイデアを元にした中分類は図 29 になります。



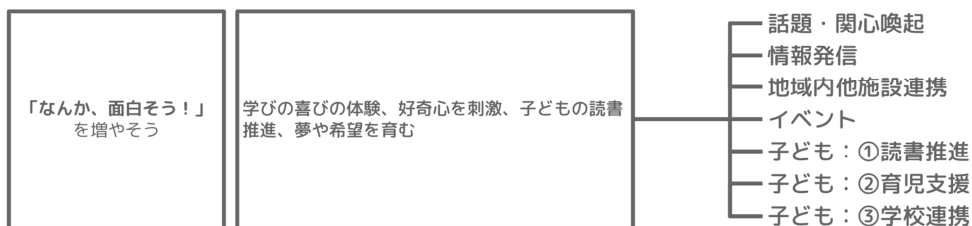


図 29 「なんか、面白そう！」を増やそうの中分類

これらを踏まえて、サービス内容を以下のように考案します。

- ・ 利用者を飽きさせず、常に話題の提供ができるよう、月ごとにテーマ特集を組む。行事や季節に限らず、ときには市民主導でのマニアックな展示も依頼・運営
- ・ 普段図書館を利用しない人の来館を促すため、図書館に興味のない人々の関心も得られるイベントの実施。
- ・ 市民主催のイベントも積極的に支援し、十分な広さのイベントスペースを確保
- ・ この図書館に来れば八女市全部が分かるようになる情報収集と発信。様々なモノの展示とそれにまつわる本により、魅力的な棚づくりや展示の運営（例：お茶、工芸品、アート、雑貨 等）
- ・ 他施設と積極的に連携、地域文化のハブになる（例：他施設の情報を図書館で発信、他施設の実施したいプログラム等を図書館で実施、施設と連携した企画展示、施設同士をつなぐ役割）
- ・ 地域文化に関わるモノの貸し出し（八女の工芸品などを地域企業の協賛で受付、それらを貸し出すような仕組みを想定）
- ・ 若年層への電子図書館の認知拡大、関心喚起の施策
- ・ 市民はもちろん図書館員やボランティアも利用するスタジオを設置し、SNS や動画での配信等にも活用

### 5-1-3 サービスの全体像

以上のサービスの内容を整理したものが図 30 になります（複数に横断する要素はより関連が強い項目に配置しています）。

なお、これらのサービスは今後徐々にカタチづくっていくものとなります。特に「市民関与機会の拡大」についてはまさしく市民や関係者の意見をさらに取り入れながら、八女市らしい図書館とまちの関係を実現可能にしていきたいと考えています。

基本方針の取組みの方向

サービステーマ（コンセプト「新芽のように」のサービスの解釈）

	居場所としての図書館	基礎的な図書館サービス	市民関与機会の拡大（図書館⇄まち）
「はぁー、ほっとする！」を増やそう	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な広さの確保。特に閲覧席・学習スペースや駐車スペースを十分なレベルまで拡充</li> <li>Wi-Fi環境の整備</li> <li>市民が多目的に利用可能な交流スペースを用意</li> <li>カフェにも展開可能な厨房スペースや給茶機のある飲食可スペース確保</li> <li>館内にBGMを流す音響設備</li> <li>全体にコンセプト「新芽のように」を解釈した空間設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の活動諸室と連動した配架計画と書架</li> <li>各活動スペースと開架エリアをシームレスにつなぐ</li> <li>バリアフリーへの配慮</li> <li>ゆったりした閲覧席、集中して学習できるスペース、会話が許容されるスペースなど、多様な目的で訪れるそれぞれの人が過ごしやすい空間づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カフェを市民団体、企業等が月替わりなどで運営できる仕組みの検討</li> <li>図書館がまち中に浸み出すように「はぁーほっとする」居場所をつくれる椅子やテーブルと本のセットの貸し出し</li> </ul>
「いや～、助かった！」を増やそう	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童向けには、一定の頻度で各エリアから本館への巡回バスを検討</li> <li>乳幼児向けには、現在一部分館でも実施している託児サービスを一定頻度で実施することを検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あるべき規模に蔵書目標数を拡大</li> <li>資料は特に①児童向け/若者向けの図書、②専門書を中心に拡充し、合わせて児童室やコーナーなど設置</li> <li>レファレンスサービスを前面に出して強化する（※具体策は別記）</li> <li>開館時間の調整を検討</li> <li>分館と本館の関係についての整理を推進（※方針は別記）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校等の図書館外での図書カードの作成機会の拡大</li> <li>その他、市民が図書館の基礎サービスに対しても意見を出せる機会を拡大</li> </ul>
「どうも、ありがとう！」を増やそう	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が気軽に意見を交わせる交流スペースや市民活動室の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民による参加型選書企画を常時開催</li> <li>布絵本の制作や読み聞かせ等のボランティアスペースの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の意見・提案を募り、市民が積極的に運営に関わり提案しやすい場づくり</li> <li>自然に投票（選択）に関われる仕組みを館内に用意</li> <li>市民講師（講座）の運営を広げる</li> <li>市民が制作物を、別の人に届け、活動の循環を促す仕組みを検討</li> <li>世代を超えた接点づくり</li> <li>コミュニティ通貨 ロマン（まちのコイン）の積極活用。</li> </ul>
「まちの記録」を増やそう	<ul style="list-style-type: none"> <li>分館にもそれぞれのテーマで、各エリアの歴史等を様々な世代に感じさせられる展示を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルを含むアーカイブを強化あらゆる方法、媒体で図書館に資料を記録・保管（貴重資料は順次デジタル化し、公開・提供）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市に関わる活動者の講演を企画運営し、その情報を記録する（市内のコミュニティ活動の記録の検討）</li> <li>スタジオスペースに記録を残すための機器や、ものづくりの環境を整え、市民活動を支える</li> </ul>
「へえ～、そうなんだ！」を増やそう	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校等と連携して継続的にテーマを集め、若年層来館のきっかけに</li> <li>移動図書館にも、地域文化に関わるモノを乗せて巡回することを検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習に役立つ資料収集、気づきを与える配架、活動を促す諸室、定期的な講座やコーナーの設置等を市民参加型の方法で開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座やコーナーの初期テーマは市民アンケートをもとに想定するが、市民アイデアは持続的に収集し、更新、管理運用していくことを想定</li> </ul>
「なんか、面白そう！」を増やそう	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民主催のイベントも積極的に支援し、十分な広さのイベントスペースを確保</li> <li>他施設と積極的に連携、地域文化のハブになる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者を飽きさせず、常に話題提供ができるよう、月次でテーマ特集</li> <li>この図書館に来れば八女市全部が分かるようになる情報収集と発信。様々なモノの展示とそれまつわる本により、魅力的な棚づくりや展示の運営</li> <li>若年層へ電子図書館認知拡大施策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段図書館を利用しない人の来館を促すため、図書館に興味のない人々の関心も得られるイベント実施</li> <li>地域文化に関わるモノの貸し出し</li> <li>市民はもちろん図書館員やボランティアも利用するスタジオを設置し、SNSや動画での発信等にも活用</li> </ul>

図 30 サービス内容概要

## 5-2 蔵書計画

### 5-2-1 蔵書目標

現在の八女市立図書館の課題として、人口規模に対して十分な蔵書数となっていない点が挙げられます。『図書館の設置及び運営上の望ましい基準』と比較すると、望ましい基準では人口5～6万人規模の自治体では、蔵書冊数は約30万冊とされているのに対し、八女市では市全体の蔵書冊数は約20万冊となっており、市全体で望ましい基準に対し10万冊程度不足しています。また、他同規模自治体と比較すると、その平均値を下回っています。

また、アンケートにおいて、今後の利用拡大のために「充実して欲しいもの」として、全ての世代で「資料の量」という回答が約30%以上得られたことや、前項で示したサービス内容の実現に向け、現本館以上の蔵書数が必要となります。以上を踏まえ、新本館の蔵書目標は現在の約10万冊から増やし、20万冊程度とします。

### 5-2-2 開架率

現本館の開架率は61.7%(令和4年3月31日時点。蔵書冊数103,726冊・開架冊数64,040冊)、市立図書館全体では69.5%(令和4年3月31日時点)であり、望ましい基準の数値65.3%とほぼ同等となっています。

今後、新本館では移動図書館の充実、配本等をはじめとした学校との連携の強化を図ります。また、分館は延床面積があまり大きくなく、十分な閉架書庫を確保するのが困難であり、開架率が高くなっていることを踏まえ、本館では十分な閉架スペースを持ち、市立図書館全体のストックヤード機能も果たすために、開架率は現状維持をベースとし60%を目標とします。

閉架スペースとしては、通常閉架書庫のほか、移動図書館用資料のための書庫を設置します。

表 23 八女市立図書館の開架率

図書館名	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)		
		うち開架図書	開架率	
八女市立図書館本館	1,277	103,726	64,040	61.7%
八女市立図書館上陽分館	100	13,684	13,131	96.0%
八女市立図書館黒木分館	258	40,037	29,930	74.8%
八女市立図書館立花分館	133	19,507	13,224	67.8%
八女市立図書館矢部分館	216	9,569	8,348	87.2%
八女市立図書館星野分館	277	17,712	13,237	74.7%
市全体	2,261	204,235	141,910	69.5%

出典：『日本の図書館 2022』

### 5-2-3 児童書割合

現本館の児童書割合は 26.6%（令和 4 年 3 月 31 日時点。蔵書冊数 103,726 冊・児童書 27,607 冊）となっています。なお、八女市においては一般書と児童書の割合は 70%：30%を基準としています。

また、同規模自治体の中央館の児童書割合の平均が 28.5%となっていること、アンケートにおいて図書館の利用理由について、30 代における「子どもと過ごすため」の回答率が 50%以上、30 代における「子ども向けの本や紙芝居」のニーズが 30%以上あること等も踏まえ、本館における児童書割合は 30%を目標とします。

表 24 同規模自治体中央館の児童書割合

No.	図書館名	延床面積 (㎡)	奉仕人口 (人)	蔵書冊数 (冊)	児童書割合	
					うち児童書	児童書割合
1	八女市立図書館本館	1,277	61,994	103,726	27,607	26.6%
2	千曲市立更埴図書館	973	60,097	130,851	36,814	28.1%
3	白河市立図書館	2,734	60,110	304,621	63,419	20.8%
4	下野市立石橋図書館	1,488	60,163	113,451	32,196	28.4%
5	長久手市中央図書館	4,201	60,183	234,339	80,331	34.3%
6	十和田市民図書館	3,199	60,345	186,739	65,782	35.2%
7	日向市立図書館	1,202	60,570	182,547	62,204	34.1%
8	田原市中央図書館	3,972	60,895	439,175	122,080	27.8%
9	紀の川市立河北図書館	873	61,094	97,192	32,383	33.3%
10	泉南市立図書館	1,600	61,149	319,554	110,766	34.7%
11	秩父市立秩父図書館	3,823	61,159	351,489	113,509	32.3%
12	みよし市立中央図書館	3,807	61,277	317,927	45,649	14.4%
13	気仙沼図書館	2,758	61,445	242,756	56,410	23.2%
14	蓮田市図書館	3,028	61,540	235,170	59,355	25.2%
15	山陽小野田市立中央図書館	3,498	61,565	237,828	57,884	24.3%
16	津島市立図書館	5,900	61,724	300,477	78,003	26.0%
17	橋本市図書館	1,400	61,774	164,918	60,356	36.6%
18	天童市立図書館	1,967	61,908	203,840	57,479	28.2%
19	多賀城市立図書館	3,342	62,311	283,298	82,862	29.2%
20	糸満市立中央図書館	3,610	62,349	256,186	68,202	26.6%
21	常総市立図書館	1,646	62,570	140,140	38,285	27.3%
22	愛西市中央図書館	2,012	62,648	147,174	39,553	26.9%
23	合志市西合志図書館	1,713	63,033	144,543	58,580	40.5%
24	白井市立図書館	2,919	63,162	561,118	106,213	18.9%
25	丹波市立中央図書館	1,224	63,235	131,072	24,429	18.6%
26	名護市立中央図書館	4,622	63,724	343,743	110,114	32.0%
27	大和高田市立図書館	1,268	63,781	104,638	36,717	35.1%
同規模自治体の中央館26館の平均		2,645.3	61,685.0	237,491.8	65,368.3	28.5%

出典：『日本の図書館 2022』

## 6 施設整備計画

### 6-1 施設規模目標

#### 6-1-1 必要な諸室・スペース

これまでのサービス内容の検討を踏まえると、新たな本館では従来の図書館機能の拡充のほか、新たな機能が必要になります。また、市民のアクセスのしやすさに鑑み、適切な規模の駐車場の整備が必要です。

それぞれの機能において必要な諸室・スペースについて、以下に示します。

#### (1) 従来の図書館機能

従来の図書館機能に必要な諸室・スペースは、従来の図書館サービス及びそれを拡充したサービスを果たすために必要な各種資料の開架・閲覧スペース、学習スペースが中心となります。

表 25 従来の図書館機能に必要な諸室・スペース

諸室・スペース	主な用途	備考
一般開架・閲覧スペース	一般書の配架、閲覧	
YA <sup>1</sup> 開架・閲覧スペース	YA 向け資料の配架、閲覧	
地域資料・参考資料開架・閲覧スペース	地域資料・参考資料の配架、閲覧	・ レファレンスカウンターも含む
視聴覚資料コーナー	視聴覚資料の配架、視聴	
新聞・雑誌コーナー	新聞・雑誌の配架、閲覧	
対面朗読室	対面朗読サービス <sup>2</sup> の実施	
読書バリアフリーコーナー	様々な障害のある方が利用しやすい形式で親しめる資料の配架、閲覧	・ 例 大活字本、LLブック、点字本、朗読CD、さわる絵本 ・ 拡大読書器、朗読CD 視聴機の設置

<sup>1</sup> YA (ヤングアダルト) …10代の利用者・読者、または児童と成人の中間期を指す言葉。主に中高生世代のこと

<sup>2</sup> 対面朗読サービス…視覚に障害のある方や活字による読書に支障のある方を対象に、指定された資料を朗読するサービス

諸室・スペース	主な用途	備考
サイレントルーム	静かな空間で読書や調べものを行う	
グループ学習室	複数人での学習や研究など	
予約本コーナー	利用者がセルフで予約本を受け取る	・ IC タグシステム関連機器の設置
展示コーナー	本、作品等の展示	・ 例 八女市の特色に関する本等を集めたコーナー、ひと箱本棚
児童開架・閲覧スペース	児童書の配架、閲覧	
おはなし室	おはなし会の開催、読み聞かせ	
授乳室・おむつ交換室、ベビーカー置き場	乳幼児とその保護者が使用しやすい設備	
事務室・会議室等	管理運営のためのバックヤード	
ボランティア作業室	図書館ボランティアによる作業	・ 倉庫含む
閉架書庫	資料保管	・ 作業スペース含む ・ 集密書架、固定書架の双方を使用 ・ 学校図書館への配本用資料も保管
移動図書館書庫	移動図書館用資料の保管	
重要書籍保管庫	重要書籍の保管	・ 作業スペース含む
トラックヤード・車庫	配送車、移動図書館車の駐車スペース	

## (2) 新たな機能

新たな機能として設置する諸室・スペースを表 26 の通り整理します。図書館や市民の活動の場、また活動の発信の場として、ギャラリーや多目的室、スタジオ、オープンスペースを設置します。また、市民の交流の場として、カフェ・飲食スペースを設置します。

表 2 6 新たな機能に必要な諸室・スペース

諸室・スペース	主な用途	備考
ギャラリー	郷土資料等の企画展示、市民活動の発信の場として使用	
多目的室	図書館主催の講演、市民活動の発信の場、会議室として使用	・ 分割して複数の用途での使用にも対応できる設え
スタジオ等	音楽演奏、配信・編集、創作活動等の市民活動の場として使用	
オープンスペース	イベントスペース、情報発信コーナーとして使用	
エントランス	玄関、ホール	
カフェ・飲食スペース	カフェ・飲食時の利用、市民の交流の場	・ 詳細は継続検討

### (3) 駐車場の必要台数

人口が6万2千人前後の同規模自治体の中央館における駐車場台数は表 2 7 に示すとおりです。人口に対する駐車場台数割合の平均は0.178%で、これを八女市の人口61,994人に当てはめると本館において必要と想定される駐車場台数は110.3台となります。

ワークショップ等で出た意見である、乗り合いタクシーやバス等が新本館近くに乗り入れられるような進入路の整備を検討することも踏まえ、新本館における駐車場台数は100台程度と想定します。詳細については、設計段階で検討します。

表 2 7 人口同規模自治体の中央館における駐車場台数

図書館名	現用館竣工年月	人口(人)	最寄り駅からのアクセス	複合/単館	図書館専有延床面積(m <sup>2</sup> )	駐車場(台)	人口に対する駐車場台数割合
大和高田市立図書館	1989年4月	63,781	徒歩8分	複合	1,268	12	0.019%
名護市立中央図書館	1999年3月	63,724	徒歩6分 (最寄りバス停から)	単館	4,622	73	0.115%
白井市立図書館	1994年4月	63,162	徒歩15分	複合	2,919	200	0.317%
天童市立図書館	1983年7月	61,908	徒歩15分	単館	1,967	48	0.078%
津島市立図書館	2000年2月	61,724	徒歩25分	単館	5,900	153	0.248%
山陽小野田市立中央図書館	1995年9月	61,565	徒歩8分	単館	3,498	62	0.101%
蓮田市図書館	1998年3月	61,540	徒歩10分	単館	3,028	77	0.125%
みよし市立中央図書館	2016年3月	61,277	最寄りバス停からすぐ	複合	3,807	39	0.064%
秩父市立秩父図書館	1986年5月	61,159	徒歩15分	単館	3,823	34	0.056%
泉南市立図書館	1983年12月	61,149	徒歩15分	複合	1,600	120	0.196%
田原市中央図書館	2002年3月	60,895	徒歩15分	複合	3,972	303	0.498%
十和田市民図書館	2014年12月	60,345	徒歩1分 (最寄りバス停から)	複合	3,199	159	0.263%
長久手市中央図書館	1992年6月	60,183	徒歩8分	単館	4,201	115	0.191%
白河市立図書館	2011年1月	60,110	徒歩5分	複合	2,734	133	0.221%
平均	-	61,608.7	-	-	3,324.1	109.1	0.178%

出典：『日本の図書館2022』、ほか各図書館ホームページ、図書館要覧・年報

※無料の駐車場台数が分かる図書館を対象としている



## 6-1-2 施設規模目標

これまでの検討を踏まえ、新本館における施設規模目標を表 28 の通り整理します。

表 28 新本館の施設規模目標

諸室名		面積	収容冊数	席数	備考	
従来の 図書館機能	一般図書ゾーン	総合カウンター等	20㎡	—	—	総合カウンター、検索端末台、自動貸出機、自動返却機等
		予約本受取コーナー	15㎡	—	—	BDSゲート、自動貸出機、予約照会機の設置
		一般開架・閲覧スペース	530㎡	61,000冊	40席	
		YA開架・閲覧スペース	105㎡	10,000冊	20席	
		地域資料・参考資料開架・閲覧スペース	140㎡	12,000冊	12席	レファレンスカウンター含む
		読書バリアフリー開架・閲覧スペース	15㎡	1,000冊	2席	収容冊数一部に朗読CD含む
		視聴覚資料コーナー	30㎡	(3,000点)	6席	
		対面朗読室	15㎡	—	—	
		サイレントルーム	30㎡	—	18席	
		グループ学習室	30㎡	—	15席	
	展示コーナー	50㎡	—	—		
	新聞・雑誌コーナー	40㎡	—	12席	ブラウジングスペース含む	
	<b>一般図書エリア計</b>		<b>1,020㎡</b>	<b>84,000冊</b>	<b>125席</b>	
	児童図書ゾーン	カウンター等	15㎡	—	—	
		児童開架・閲覧スペース	285㎡	36,000冊	20席	
		おはなし室	40㎡	—	—	20人程度
		授乳室・おむつ交換室・ベビーカー置き場	30㎡	—	—	
		トイレ・廊下等	35㎡	—	—	
	<b>児童図書エリア計</b>		<b>405㎡</b>	<b>36,000冊</b>	<b>20席</b>	
バックスペース・全体共用部	事務室・会議室等	295㎡	—	—	事務室、会議室、応接室、休憩室・ロッカー、作業室	
	ボランティア作業室	50㎡	—	—		
	閉架書庫	145㎡	66,900冊	—	作業スペース含む。集密書架、固定書架双方を設置	
	移動図書館用書庫	50㎡	13,100冊	—	作業スペース含む	
	重要書籍保管庫	120㎡	—	—	作業スペース含む	
	トラックヤード・車庫	140㎡	—	—		
	トイレ・廊下等	660㎡	—	—	一般図書ゾーン、バックスペースのトイレ・廊下等	
<b>バックスペース・全体共用部計</b>		<b>1,460㎡</b>	<b>80,000冊</b>	<b>—</b>		
<b>従来の図書館機能計</b>		<b>2,885㎡</b>	<b>200,000冊</b>	<b>145席</b>		
新たな機能	ギャラリー	50㎡	—	—		
	多目的室	200㎡	—	100席		
	スタジオ等	80㎡	—	—		
	オープンスペース	50㎡	—	—	イベントスペース、情報発信コーナーとして使用	
	エントランス	30㎡	—	—		
	カフェ・飲食スペース	150㎡	—	—		
	トイレ・廊下等	55㎡	—	—	ユニバーサルデザインに対応	
<b>新たな機能計</b>		<b>615㎡</b>	<b>—</b>	<b>—</b>		
<b>合計</b>		<b>3,500㎡</b>	<b>200,000冊</b>	<b>145席</b>		

※視聴覚資料点数は収容冊数に含めない

## 6-2 整備実現上の改修・移転について

これまで検討してきたコンセプト及びサービスを実現し、蔵書規模目標や駐車場スペース等を鑑みて、現施設を改修した場合、移転した場合の実現性を検討します。

また、現有の公有地の有効活用を図ることが財政的な点からも重要なことと考えます。そのためにも、検討にあたっては、①現施設での改修、②現地での建て替え、③新築移転の3つを比較します。

### 6-2-1 前提条件

表 29 現施設の敷地情報

所在地		八女市本町 536-3
敷地面積		2,333.96 m <sup>2</sup>
都市計画	用途地域	商業地域
	建蔽率	80%
	容積率	400%
	防火指定	準防火地域

※現施設の延床面積：1,277.00 m<sup>2</sup>

#### 【新図書館の条件】

延床面積 3,500 m<sup>2</sup>／駐車場 1,500 m<sup>2</sup>（100 台分、1 台あたり 15 m<sup>2</sup>で算出）

#### (1) 現施設での改修

- ・ 延床面積は、現施設 1,277 m<sup>2</sup>での検討となります

#### (2) 現地での建て替え

- ・ 敷地内に平面駐車場 100 台分である 1,500 m<sup>2</sup>を確保する場合、建築面積は 834 m<sup>2</sup>となり、延床面積 3,500 m<sup>2</sup>の図書館を建築しようとする 5 フロア必要となります。それほど広くないフロアが何階層にも分かれることで、利便性低下の問題と、運営への負荷が懸念されます
- ・ 1,867 m<sup>2</sup>（現敷地面積 2,333.96 m<sup>2</sup>×建蔽率 80%）を全て図書館の建築面積とした場合、2 フロア程度となりますが、駐車場に使える敷地は 467 m<sup>2</sup>（平面 31 台分）となります

#### (3) 新築移転

- ・ 駐車場 1,500 m<sup>2</sup>に加え、施設フロア数を 2 フロア程度と想定した場合、建築面積が 1,750 m<sup>2</sup>以上となり、最低でも 3,250 m<sup>2</sup>以上の敷地が必要となります

- ・ ワークショップなどでも意見のあった広場等の整備も今後、視野にいれる場合は、なるべく広い面積の土地への移転が望まれます

## 6-2-2 比較

それぞれの条件において、新コンセプトを実現できるか、目標の蔵書数が収まるか、駐車場が確保できるか、想定されるコストや休館への影響などの観点から、①～③の条件を比較します。

表 30 各条件における比較

	①現施設での改修	②現地での建て替え	③新築移転 (3,250 m <sup>2</sup> 以上の場合)
蔵書	× ・ 閉架率を上げることで蔵書数を増やすことはできるが、20万冊は難しい	△ ・ 駐車場との兼ね合いにより20万冊は難しい	○ ・ 蔵書数目標を達成できる
施設	× ・ 蔵書数を確保した場合はその分、その他フロアが狭くなり、バリアフリーの確保や新たなサービスの提供は困難となる	× ・ 平面駐車場を確保した場合、フロア数が5以上となり、利便性の低下、運営費の増大が考えられる	○ ・ フロア数を2～3に抑えられるため、利便性が確保され、運営費の増大も施設面積の増加、サービス内容の増加分にとどめることができる
駐車場	× ・ 駐車場の台数は変更できない	△ ・ 駐車場台数は確保できるが、諸室・スペースとのバランスの検討が必要	○ ・ 諸室・スペースを設けた上で、平面駐車場を確保することができる
サービス	× ・ 新コンセプトを実現するには、十分なスペース等の条件がそろわない	△ ・ 新しい諸室・スペースを検討できるが、駐車場との兼ね合いで十分なスペースは確保できない可能性がある	○ ・ 新コンセプトを実現するための、新しい諸室やスペースを一から検討できる

管理運営	<p style="text-align: center;">×</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休館期間（代替サービス）が発生する</li> <li>・ 資料一時保管場所が必要</li> </ul>	<p style="text-align: center;">×</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休館期間（代替サービス）が発生する</li> <li>・ 資料一時保管場所が必要</li> </ul>	<p style="text-align: center;">○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休館期間が最短</li> <li>・ 資料の一時保管場所は不要</li> </ul>
改修・建設コスト	<p style="text-align: center;">○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最低限の費用で抑えられる ※外壁の一部崩落や雨漏りのため、改修費は増える可能性がある</li> </ul>	<p style="text-align: center;">×</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解体費用と新築工事費用がかかる</li> </ul>	<p style="text-align: center;">△</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新築工事費用がかかる</li> </ul>

これらの比較から、新たな中央図書館としての機能を実現する上では、③新築移転が最も適していると考えられます。

## 7 管理運営計画

### 7-1 開館時間・休館日

現本館の開館時間・休館日は、表 31 のとおりです。

新本館の開館時間・休館日については、現本館を基準としながらも、コンセプト「新芽のように」及び本計画において検討したサービス、市民ニーズを踏まえ引き続き検討を続けます。

表 31 現本館の開館時間・休館日

項目	内容
開館時間	平日：午前 10 時から午後 8 時まで 土・日・祝：午前 10 時から午後 6 時まで
休館日	毎週月曜日 毎月最終金曜日（館内整理日） 年末年始（12 月 29 日～1 月 4 日） 特別整理期間

### 7-2 管理運営体制

現本館の令和 5 年現在における蔵書数は約 10.5 万冊、延床面積は 1,277 m<sup>2</sup>です。新本館は、蔵書規模目標 20 万冊、施設規模目標 3,500 m<sup>2</sup>であり、現本館より大幅に増加することとなります。そのため、それを踏まえた管理運営体制の構築が必要です。

表 32 は、専有延床面積 3,000～3,500 m<sup>2</sup>の図書館の平均値を示したものです。今回、新本館の施設規模目標としている程度の図書館では、現本館の 2 倍以上の職員数が必要となります。

表 32 新本館と同規模の図書館の職員数

項目	専有延床面積 (m <sup>2</sup> )	職員数計 (人)	うち司書	年間開館日数 (日)
3,000～3,500 m <sup>2</sup> 規模の図書館 (91 館) の平均	3,234.8	25.06	14.50	281.7
うち中央館 (72 館) の平均	3,240.1	26.31	14.65	282.0
(参考) 現本館	1,277	11.0	10.0	231

出典：「日本の図書館 2022」

現本館では、現在の人員体制では基礎的なサービスの提供においてこれ以上の拡大は難しい状態ですが、新本館の整備を機に、そうした基本サービスについては図書館職員が自らの手で提供できる体制を整えることが必要です。また、本計画においては、市民の方々と図書館との多様な関わりの機会の拡充も図っています。市民参画の機会も活用し、新本館を形作っていきます。

また、新本館の整備に当たっては、開館準備の段階から開館後まで、10～20年先も見据えて考える、柱となる人材が必要です。開館準備の段階から中心となり、新本館の整備を行うことで、継続的にコンセプトに沿ったサービスの提供ができるような人材の確保・配置を検討します。

運営手法に関しては、現本館では直営（一部業務委託）という形をとっていますが、新本館においては引き続き検討します。

## 8 事業計画

### 8-1 概算事業費

これまで検討した内容をもとに試算した、今後の概算事業費を表 3 3 及び表 3 4 に示します。

施設規模 3,500 m<sup>2</sup>の場合、施工費をはじめとする総事業費（イニシャルコスト）は 33.83 億円、運営費用（年間）は 2.4 億円と試算しています。

今後の管理運営計画や設計等において施設規模や設備仕様を決定していく中で、事業内容の詳細を検討・精査していきます。また、財政負担の軽減を図るためにも、活用できる国や県の補助制度等の活用も図っていきます。

表 3 3 総事業費（イニシャルコスト）概算

項目	金額	備考
施工費	2,695,000,000	建物工事費
備品・家具費	378,000,000	書架、机・椅子、カーテン等
移転・準備作業費	155,300,000	開館準備業務、新館への移転作業
事業費	31,800,000	開館イベント、Wi-Fi設置費用、座席管理システム、サイネージ、貸出用タブレット、HP作成費、読書通帳機等
図書購入費	45,600,000	新規購入20,000冊、マーク代含む
IC関連費	77,300,000	ICタグシステム関連機器等（設置費用、タグ代含む） ※IC機器をリースにした場合は、設置費用、タグ代8,900,000円のみ
計	3,383,000,000	

表 3 4 運営費（ランニングコスト）概算

項目	金額	備考
人件費	190,350,000	直営の場合
施設維持管理費	15,750,000	ビルメンテナンス費用・清掃費用等 ※光熱水費は除く
事業費	13,300,000	まちの記録デジタルアーカイブ、企画イベント実施、3Dプリンター等のファブスペース機器リース、各種機器保守等
図書購入費	13,800,000	年間6,000冊（同規模人口自治体中央館の平均値より算出）、マーク代含む
IC関連費	6,800,000	ICタグシステム関連機器保守料、タグ等 ※IC機器をリースにした場合は、リース料15,200,000円／年を計上
計	240,000,000	

※税込表記

※延床面積は 3,500 m<sup>2</sup>を基準として算出

※施工費は 1 m<sup>2</sup>あたり 70 万円で算出、ZEB ready を想定

※その他上記に含まないもの

総事業費…外構、駐車場、サイン計画、プロモーション事業費など

運営費…図書館システム費、オンラインデータベース費、通信費や消耗品等の諸経費

## 8-2 事業スケジュール

新築移転の場合の開館までのスケジュールを表 35 の通り想定します。

本計画で検討した内容の実現に向けた詳細を検討する管理運営計画の策定と並行して基本設計を行い、ソフト面とハード面の整合を図ります。また、ハード面の整備と並行して図書の新規購入、図書館システムの更新を行い準備を進めます。

表 35 事業スケジュール (想定)

項目		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
管理運営計画策定		■				
設計	基本設計	■				
	実施設計		■			
建設工事				■	■	
図書	新規購入分選書・発注			■	■	
	開館準備				■	■
	引っ越し					■
図書館システム	更新・移行				■	
新図書館開館						●

※現時点での想定スケジュール





# 巻末資料 市民アンケート調査結果

---

## 1. 調査概要

### (ア) 調査の目的

本調査は、「八女市立図書館本館整備基本計画」の策定にあたり、現利用者の利用実態やニーズの把握及び未利用者（潜在的な利用者層）の意見を聴取することで、計画策定の基礎資料とするために実施しました。

特に、図書館の利用層として、10代の若年層の意見の収集に注力しました。

### (イ) 実施概要

調査期間：令和5年7月18日（火）～令和5年9月7日（木）

調査対象：八女市民及び八女市通勤通学者、八女市立図書館利用者層

調査方法：Web アンケート、紙アンケート

### (ウ) 回答状況

① 合計有効回答数：1,423

② 年代別回答数

	回答数	割合
70歳以上	54	3.8%
60～69歳	68	4.8%
50～59歳	76	5.3%
40～49歳	102	7.2%
30～39歳	63	4.4%
20～29歳	79	5.6%
10～19歳	981	68.9%

③ エリア別回答数

	回答数	割合
八女地区（旧八女市）	926	65.1%
上陽地区	19	1.3%

黒木地区	149	10.5%
立花地区	83	5.8%
矢部地区	17	1.2%
星野地区	40	2.8%
八女市外	127	8.9%
その他	62	4.4%

## 2. 調査結果

※本アンケートは、10代の回答数が全体の約70%と大きな割合となっており、総計への影響が大きくなっています。今回は、重み付けによって全世代の合計結果に対するバイアス（偏り）を修正するのではなく、世代別のニーズや意見を把握し、比較をすることを主目的として、世代別の回答結果を中心としてレポートを展開します。

### ① 八女市立図書館の利用経験

- ・ 図書館の利用経験率は若年層10-20代が低く60-70%程度。30代以降はほぼ90%以上と、若年層の利用度が低いことが伺える。

	回答数	割合	10代 割合	20代 割合	30代 割合	40代 割合	50代 割合	60代 割合	70代～ 割合
利用したことがある	997	70.1%	61.2%	73.4%	93.7%	97.1%	88.2%	97.1%	88.9%
利用したことはない	308	21.6%	27.1%	26.6%	3.2%	2.9%	11.8%	2.9%	9.3%
わからない	118	8.3%	11.7%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%

### ② 利用経験のある図書館

- ・ 八女市立図書館本館が87.5%とトップ。続いて、黒木分館が22.6%、移動図書館の20.5%となる。以降は、立花分館、上陽分館、星野分館、矢部分館と続く。

	回答数	割合	10代 割合	20代 割合	30代 割合	40代 割合	50代 割合	60代 割合	70代～ 割合
八女市立図書館本館	872	87.5%	84.0%	89.7%	93.2%	97.0%	95.5%	92.4%	83.3%
黒木分館	225	22.6%	19.2%	12.1%	28.8%	33.3%	25.4%	28.8%	35.4%

立花分館	139	13.9%	7.2%	17.2%	32.2%	24.2%	28.4%	22.7%	18.8%
上陽分館	92	9.2%	3.0%	6.9%	15.3%	21.2%	17.9%	24.2%	25.0%
矢部分館	44	4.4%	2.3%	1.7%	1.7%	8.1%	10.4%	10.6%	12.5%
星野分館	90	9.0%	5.8%	6.9%	20.3%	9.1%	9.0%	15.2%	29.2%
移動図書館	204	20.5%	24.5%	12.1%	16.9%	19.2%	11.9%	15.2%	6.3%
わからない	32	3.2%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

### ③ 図書館の利用頻度

- ・ 図書館利用経験者の図書館の利用頻度は10～20代は年数回程度から数年に1回程度が多く、30代以降は月2～3回から年数回程度が大きな割合となった。

	10代 割合	20代 割合	30代 割合	40代 割合	50代 割合	60代 割合	70代～ 割合
ほぼ毎日	0.3%	3.4%	0.0%	1.0%	0.0%	3.0%	2.1%
週に3～5回程度	0.8%	1.7%	3.4%	1.0%	1.5%	4.5%	0.0%
週に1～2回程度	4.5%	5.2%	6.8%	8.1%	11.9%	12.1%	14.6%
月に2～3回程度	6.2%	5.2%	37.3%	22.2%	20.9%	28.8%	35.4%
月に1回程度	8.3%	10.3%	18.6%	18.2%	7.5%	10.6%	16.7%
年に数回程度	30.7%	27.6%	20.3%	23.2%	34.3%	30.3%	22.9%
数年に1回程度	46.0%	39.7%	10.2%	21.2%	19.4%	9.1%	8.3%
その他	3.2%	6.9%	3.4%	5.1%	4.5%	1.5%	0.0%

### ④ 図書館の滞在時間

- ・ 40代以外は10分～30分未満が最も多くなっており、40代については、30分～1時間未満の利用者が多くなった。
- ・ 10代と70代で10分未満の利用数が10%を超えており、短時間の目的だけのための場所として図書館を利用する意向が他の世代よりも大きくなっている。

	10代 割合	20代 割合	30代 割合	40代 割合	50代 割合	60代 割合	70代～ 割合
10分未満	12.0%	5.2%	3.4%	7.1%	7.5%	9.1%	16.7%
10分～30分未満	37.5%	41.4%	45.8%	38.4%	50.7%	48.5%	47.9%
30分～1時間未満	27.2%	27.6%	37.3%	42.4%	34.3%	31.8%	25.0%
1時間～2時間未満	14.0%	19.0%	13.6%	11.1%	7.5%	6.1%	8.3%
2時間～3時間未満	6.2%	6.9%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	2.1%
3時間以上	3.2%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%

#### ⑤ 図書館を利用する時間帯

- ・ 土日祝日の利用が大きいのが10～30代、平日午後の利用が比較的大きいのが30～70代、平日午前の利用は70代が大きくなっている。
- ・ 10代は図書館の利用について決まっていない（曜日や時間は関係ない）と回答した割合が60%を超えており、習慣的な利用が少ないことが伺える。

	10代 割合	20代 割合	30代 割合	40代 割合	50代 割合	60代 割合	70代～ 割合
平日午前	2.0%	3.4%	10.2%	8.1%	3.0%	10.6%	22.9%
平日午後	7.2%	17.2%	37.3%	19.2%	29.9%	40.9%	22.9%
平日の夜間（18時以降）	0.8%	17.2%	8.5%	10.1%	6.0%	1.5%	0.0%
土・日・祝日の午前	12.8%	27.6%	28.8%	17.2%	13.4%	6.1%	8.3%
土・日・祝日の午後	23.7%	24.1%	35.6%	17.2%	29.9%	6.1%	6.3%
決まっていない	62.5%	39.7%	25.4%	41.4%	35.8%	39.4%	47.9%
その他	1.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	1.5%	0.0%

#### ⑥ 図書館の利用理由（3つまで選択）

- ・ 30代以降の世代では最も大きいのが「本やDVD等の貸出や返却のため」となっており、図書館利用者の半数を超えている。
- ・ 一方で、10代は「図書館で読書をするため」が47.0%、20代は「勉強や仕事をするため」48.3%と最も大きな割合となっている。

- ・ 30代は「子どもと過ごすため」の割合が「本やDVD等の貸出や返却のため」とほぼ同率の54.2%と大きく、育児上の利用意向が伺える。

	10代 割合	20代 割合	30代 割合	40代 割合	50代 割合	60代 割合	70代～ 割合
本やDVD等の貸出や返却のため	34.7%	37.9%	55.9%	50.5%	64.2%	69.7%	70.8%
図書館で読書をするため	47.0%	25.9%	16.9%	24.2%	16.4%	24.2%	22.9%
調べ物やその相談をするため	16.2%	29.3%	8.5%	25.3%	28.4%	18.2%	25.0%
新聞、雑誌等の閲覧のため	3.8%	6.9%	10.2%	5.1%	10.4%	18.2%	12.5%
勉強や仕事をするため	38.2%	48.3%	8.5%	24.2%	9.0%	10.6%	12.5%
子どもと過ごすため	2.0%	6.9%	54.2%	26.3%	9.0%	0.0%	6.3%
イベントや講座などに参加するため	2.7%	1.7%	15.3%	7.1%	9.0%	16.7%	12.5%
友人と交流するため	11.0%	3.4%	1.7%	3.0%	3.0%	3.0%	6.3%
気晴らしや時間つぶしのため	33.5%	34.5%	15.3%	17.2%	16.4%	9.1%	14.6%
PC等の端末を利用するため	3.0%	1.7%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	2.1%
その他	2.7%	1.7%	0.0%	3.0%	6.0%	6.1%	4.2%

#### ⑦ 図書館を利用しない理由

- ・ 図書館未利用者が図書館を利用しない理由は主に「本を読まないから」が最も大きく、次いで「図書館に行く時間がないから」「図書館が近くにないから」となっている。(30代以降は母数が少ないので参考まで)
- ・ 若年層10-20代では「インターネットの検索で十分だから」の割合も大きいですが、特に10代は「図書館に行く時間がないから」「図書館が近くにないから」の割合も40%を超えており、図書館を自分の居場所として利用する意向が弱いことが伺える。

	10代 割合	20代 割合	30代 割合	40代 割合	50代 割合	60代 割合	70代～ 割合
図書館の存在や場所を知らないから	30.1%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%
本を読まないから	47.4%	42.9%	50.0%	0.0%	11.1%	0.0%	20.0%
本などは買って読むから	35.7%	19.0%	50.0%	66.7%	11.1%	50.0%	60.0%
読みたい本が置いていないから	14.3%	9.5%	0.0%	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%

本や DVD の貸出返却が面倒だから	16.5%	4.8%	50.0%	66.7%	11.1%	0.0%	20.0%
閲覧席や学習スペースが狭いから	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	20.0%
図書館の雰囲気が好ましくないから	4.9%	4.8%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%
図書館に行く時間がないから	45.5%	28.6%	100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	60.0%
図書館が近くにないから	46.6%	14.3%	50.0%	33.3%	22.2%	0.0%	0.0%
行くための交通手段がない	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
八女市外の図書館を使っているから	17.3%	4.8%	0.0%	0.0%	33.3%	50.0%	0.0%
利用したい日時に開いていないから	4.5%	4.8%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%
図書館の利用方法がわからないから	13.5%	9.5%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	40.0%
インターネットの検索で十分だから	34.6%	42.9%	0.0%	33.3%	22.2%	0.0%	60.0%
バリアフリーなどが不十分だから	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%
図書館の印象が薄いから	13.2%	23.8%	100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	20.0%
その他	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%

#### ⑧ 利用拡大に向けて「充実してほしい」もの（3つまで選択）

- ・ 利用者、未利用者全体に対して、今後の利用拡大に向けて「充実してほしい」ものについて確認する質問では、10-20代については概ね傾向が似通っており、「インターネット端末の設置や Wi-Fi 環境」「資料（本・雑誌・CD・DVD 等）の量」「閲覧席や学習スペース」の順に大きくなっていった。
- ・ 「資料（本・雑誌・CD・DVD 等）の量」はすべての世代で約 30%以上の回答が集まっていた。
- ・ 「駐車スペース」は 30-60代で最も「充実してほしい」意向が強い選択肢となっていた。（70代以上では 2 番目、20代では 4 番目）
- ・ 30代については「駐車スペース」に次いで「子ども向けの本や紙芝居」38.1%、「おはなし会などのイベント」30.2%の割合が大きく、子育てニーズの意向が強いことが伺えた。
- ・ 40代は「閲覧席や学習スペース」「インターネット端末の設置や Wi-Fi 環境」の割合が大きくなっている。
- ・ また「新刊書」に対する充実要望については、10代 13.8%から 70歳以上 42.6%と、年代が上がるにしたがって要望が強まる傾向が見られた。

	10代 割合	20代 割合	30代 割合	40代 割合	50代 割合	60代 割合	70代～ 割合
資料の量	29.6%	26.6%	28.6%	25.5%	36.8%	32.4%	37.0%
専門書	6.4%	11.4%	15.9%	16.7%	10.5%	5.9%	20.4%
新刊書	13.8%	17.7%	19.0%	23.5%	28.9%	26.5%	42.6%
雑誌・新聞の種類	12.0%	5.1%	14.3%	9.8%	14.5%	10.3%	11.1%
子ども向けの本や紙芝居	6.5%	7.6%	38.1%	10.8%	13.2%	4.4%	5.6%
閲覧席や学習スペース	28.7%	24.1%	22.2%	36.3%	21.1%	19.1%	5.6%
インターネット端末/Wi-Fi環境	43.4%	44.3%	17.5%	30.4%	19.7%	20.6%	11.1%
郷土資料や行政資料	2.3%	3.8%	3.2%	7.8%	9.2%	2.9%	14.8%
レファレンスサービス	2.9%	3.8%	3.2%	8.8%	2.6%	5.9%	5.6%
リクエストサービス	11.4%	5.1%	12.7%	6.9%	7.9%	5.9%	5.6%
予約サービス	10.5%	10.1%	9.5%	6.9%	5.3%	5.9%	7.4%
おはなし会などイベント	2.4%	2.5%	30.2%	6.9%	6.6%	2.9%	7.4%
本の企画展示	5.5%	10.1%	6.3%	6.9%	10.5%	7.4%	7.4%
開館日数・開館時間	9.9%	11.4%	11.1%	10.8%	13.2%	5.9%	7.4%
職員やスタッフの資質	2.8%	2.5%	1.6%	3.9%	10.5%	5.9%	7.4%
駐車スペース	8.8%	21.5%	44.4%	39.2%	43.4%	44.1%	33.3%
貸出可能冊数	9.2%	2.5%	1.6%	3.9%	3.9%	5.9%	0.0%
各種講座	2.0%	2.5%	7.9%	10.8%	7.9%	11.8%	13.0%
その他	2.0%	5.1%	3.2%	7.8%	3.9%	5.9%	3.7%

⑨ 「くらしを豊かにする図書館」実現のために、今後重視すべき体験機会（3つまで選択）

- ・ 各世代共通でほぼ40%以上の方々が「カフェスペースで珈琲やお茶を飲みながら本を読んだり談笑ができる」をあげており、10代以外の世代では最も大きな意見が集まった。



- 10代では「無料Wi-Fi環境等でインターネットが使いやすい」が最も大きな意見として上がっており、「カフェスペースで・・・」は2番目に大きな意見が集まった選択肢であった。次いで「勉強や調査等の専用スペースで1人1人が静かに集中できる」があがっていた。
- 20代でも10代同様の3つの選択肢に意見が集まる傾向は共通していた。
- 30代では子育てニーズから特に「乳幼児や児童が十分な広さの専用スペース（授乳室、おはなし室など）で楽しく過ごせる」49.2%、「スペースによっては乳幼児や児童が走り回ることもできる」39.7%と、強い意向が集まった。
- 全体を通じてくらしを豊かにする図書館のために、潜在的に「居場所としての図書館」を重視する意向が伺えた。
- 同質問のその他に目立つ傾向について下記となる。
  - 「セルフ型の自動貸出機でスムーズな貸出手続きができる」については、10代と70代以外で20%を超える意向が集まった。
  - 「身近な場所で図書の借受や返却ができる」については40代と70代で20%を超える意向が集まった。
  - 「高齢者や障がい者など要配慮者が利用しやすい」については、30代、50代、60代で20%を超える意向が集まった。
  - 「好きな視聴覚資料（CD、DVD等）を視聴・鑑賞できるコーナーが充実」については10代、60代、70代で20%以上の意向が集まった。
  - 「くらしの質を高めるような情報提供やセミナー等のプログラムが充実」については、50代で20%以上の意向が集まった。
  - 「八女市に関わる古今東西の情報を広く知れる（「まちの今」と連携した企画展示など）」は70代以上で20%を超える意向が集まった。この選択肢は上の世代に上がるに従って意向が高まった。
  - 「図書の貸し出し以外に、市民が参加・体験・交流したり、発信できる様々な機会がある」については20代、30代、60代で20%を超える意向が集まった。

	10代 割合	20代 割合	30代 割合	40代 割合	50代 割合	60代 割合	70代～ 割合
セルフ型の自動貸出機でスムーズな貸出手続きができる	14.0%	21.5%	22.2%	24.5%	26.3%	23.5%	9.3%
身近な場所で図書の借受や返却ができる	17.2%	17.7%	15.9%	24.5%	19.7%	16.2%	31.5%
乳幼児や児童が十分な広さの専用スペース（授乳室、おはなし室など）で楽しく過ごせる	11.5%	20.3%	49.2%	15.7%	25.0%	27.9%	16.7%

スペースによっては乳幼児や児童が走り回ることもできる	8.7%	16.5%	39.7%	19.6%	18.4%	11.8%	7.4%
高齢者や障がい者など要配慮者が利用しやすい	15.7%	13.9%	22.2%	17.6%	28.9%	22.1%	16.7%
無料 Wi-Fi 環境等でインターネットが使いやすい	48.1%	46.8%	34.9%	38.2%	46.1%	30.9%	22.2%
勉強や調査等の専用スペースで1人1人が静かに集中できる	33.4%	41.8%	31.7%	45.1%	36.8%	32.4%	22.2%
カフェスペースで珈琲やお茶を飲みながら本を読んだり談笑ができる	39.4%	62.0%	61.9%	55.9%	51.3%	41.2%	40.7%
好きな視聴覚資料（CD、DVD等）を視聴・鑑賞できるコーナーが充実	24.2%	15.2%	15.9%	7.8%	17.1%	22.1%	20.4%
くらしの質を高めるような情報提供やセミナー等のプログラムが充実	2.4%	2.5%	19.0%	17.6%	21.1%	14.7%	9.3%
専門知識をもったスタッフが様々な悩みや不安の解決を支援してくれる	5.0%	7.6%	7.9%	2.9%	13.2%	10.3%	9.3%
八女市に関わる古今東西の情報を広く知れる（「まちの今」と連携した企画展示など）	3.3%	3.8%	4.8%	11.8%	13.2%	16.2%	20.4%
八女市の伝統産業や伝統的建造物等について体験的に知り、学ぶ機会がある	7.8%	7.6%	9.5%	17.6%	5.3%	14.7%	7.4%
自分の経験や特技に関わるプログラムに講師等の立ち位置でも関与できる	3.7%	7.6%	1.6%	8.8%	6.6%	1.5%	3.7%
まちの面白い人物や小さな出来事の記録を残したり、読むことができる	9.3%	8.9%	11.1%	12.7%	7.9%	7.4%	13.0%
貸スペースでイベントやサークル活動等の交流活動ができる	5.3%	20.3%	19.0%	18.6%	13.2%	16.2%	7.4%
ファブスペース（3Dプリンター・リングラフなど）で創作をしたり、その展示ができる	7.5%	8.9%	9.5%	7.8%	6.6%	5.9%	11.1%

図書館の利用者同士が世代を超えて交流できる機会（本や文化に関わるもの）が多くある	6.9%	12.7%	6.3%	12.7%	11.8%	17.6%	7.4%
図書の貸し出し以外に、市民が参加・体験・交流したり、発信できる様々な機会がある	8.8%	20.3%	27.0%	14.7%	17.1%	25.0%	14.8%
市民の関わった企画展示等を図書館内で多く見ることができる	3.1%	7.6%	3.2%	6.9%	10.5%	8.8%	14.8%
その他	0.4%	0.0%	4.8%	5.9%	3.9%	5.9%	3.7%

⑩ 中高生の利用拡大のために必要なこと（3つまで選択）

- ・ 当事者たる 10 代では「Wi-Fi 環境を整えること」57.2%、「中学生・高校生向けの本や雑誌を増やすこと（例「ファッション」「カルチャー」「進路」など）」43.7%、「友人と会話したり、グループ学習できたりする場所があること」39.4% という意見が集まった。
- ・ その一方で「閲覧スペースや学習スペースを増やすこと」25.3%、「参考書や学習に使える本を増やすこと」27.6%は他世代と比べると割合が小さくなった。特に「閲覧スペースや学習スペースを増やすこと」については、20-50 代では 50%以上の意見が集まっていた。

	10代 割合	20代 割合	30代 割合	40代 割合	50代 割合	60代 割合	70代～ 割合
中学生・高校生向けの本や雑誌を増やすこと	43.7%	34.2%	27.0%	26.5%	18.4%	17.6%	25.9%
参考書や学習に使える本を増やすこと	27.6%	44.3%	38.1%	30.4%	32.9%	16.2%	37.0%
閲覧スペースや学習スペースを増やすこと	25.3%	51.9%	50.8%	54.9%	51.3%	42.6%	37.0%
友人と会話したり、グループ学習できること	39.4%	48.1%	52.4%	45.1%	38.2%	17.6%	31.5%
Wi-Fi 環境を整えること	57.2%	51.9%	50.8%	47.1%	57.9%	45.6%	31.5%
インターネットを利用できる PC 等を置くこと	23.3%	16.5%	17.5%	20.6%	26.3%	32.4%	20.4%

図書館でビデオ、DVD、CD を見たり聞いたりできること	17.3%	8.9%	1.6%	3.9%	7.9%	10.3%	18.5%
図書館の使い方や本の探し方を教えてくれること	5.4%	3.8%	3.2%	6.9%	10.5%	5.9%	7.4%
学校の授業で図書館を使うこと	13.6%	22.8%	30.2%	20.6%	10.5%	20.6%	20.4%
図書館で中高生向けのイベントが行われること	9.4%	8.9%	19.0%	17.6%	11.8%	14.7%	16.7%
図書館に関わるお知らせが自然に届くこと	7.6%	15.2%	23.8%	13.7%	15.8%	17.6%	13.0%
図書館の司書が学校に来て話をしてくれること	2.0%	6.3%	3.2%	10.8%	7.9%	8.8%	5.6%
図書館の開館時間が長くなること	10.5%	29.1%	17.5%	20.6%	13.2%	11.8%	3.7%
わからない	3.7%	2.5%	3.2%	2.0%	0.0%	0.0%	1.9%
その他	0.4%	3.8%	1.6%	6.9%	6.6%	1.5%	3.7%

#### ⑪ 「やめし電子図書館」の利用

- ・ 10-20代の利用経験率が10%を下回っていた一方で、30代以降では20%前後の方々が利用経験を持っていた。

	10代 割合	20代 割合	30代 割合	40代 割合	50代 割合	60代 割合	70代～ 割合
利用したことがある	9.5%	7.6%	23.8%	24.5%	18.4%	22.1%	22.2%
利用したことがない	67.5%	88.6%	74.6%	70.6%	80.3%	75.0%	68.5%
わからない	23.0%	3.8%	1.6%	4.9%	1.3%	2.9%	9.3%

- ・ 利用経験者に対して、おすすめ度合いを10段階で聞いたところ平均6.9のおすすめ度合いとなった
- ・ その理由としては、「手軽」「便利」という声がある一方で、「本は紙が良い」「好きな本がない」「検索がしにくい」という声があがっていた。

	10代 割合	20代 割合	30代 割合	40代 割合	50代 割合	60代 割合	70代～ 割合

1	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2	1.1%	16.7%	6.7%	0.0%	7.1%	6.7%	0.0%
3	1.1%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	6.7%	8.3%
4	6.5%	16.7%	13.3%	4.0%	0.0%	13.3%	0.0%
5	12.9%	33.3%	0.0%	28.0%	21.4%	26.7%	41.7%
6	12.9%	0.0%	13.3%	16.0%	14.3%	6.7%	8.3%
7	11.8%	0.0%	20.0%	0.0%	7.1%	6.7%	8.3%
8	17.2%	0.0%	13.3%	28.0%	21.4%	0.0%	8.3%
9	8.6%	16.7%	6.7%	8.0%	7.1%	13.3%	8.3%
10	23.7%	16.7%	26.7%	12.0%	21.4%	20.0%	16.7%

- ・ 一方で、利用したことがない理由については、「「やめし電子図書館」を知らなかったから」が10代で80%を超えていた。

	10代 割合	20代 割合	30代 割合	40代 割合	50代 割合	60代 割合	70代～ 割合
「やめし電子図書館」を 知らなかったから	80.4%	57.5%	39.6%	51.9%	48.4%	41.5%	50.0%
「やめし電子図書館」の 使い方が分からないから	17.0%	17.8%	20.8%	33.8%	30.6%	26.4%	45.2%
紙の本・雑誌を読みたいから	9.6%	16.4%	43.8%	28.6%	33.9%	37.7%	35.7%
読みたい電子書籍・雑誌がないから	9.3%	15.1%	8.3%	7.8%	1.6%	9.4%	7.1%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑫ 自由回答（その他、図書館に対して気になることや、今後の図書館について）

- ・ 現状の図書館に対する感想やこれからの図書館への要望など多くの意見やアイデアが集まった。
- ・ ここでも「駐車場スペース」の不足で利用がしにくいことへの要望が大きかったことに加えて、「気軽に行ける場所」や「明るい場所」になって欲しいという雰囲気に対する要望、「カフェ」の要望や「自習」スペースの充実などの機能的な要望など、個人の居場所としての図書館を重視する意向が大きいことが読み取れた。（なお、これからの図書館に関わるアイデアについては、すべてサービス検討のためのアイデアとして抽出、

とりまとめを行った。)

- ・ 加えて、司書の対応が良くなっている、気持ちよく利用できるなど、現在のソフト面（主に人的なサービス）に対する満足の声も伺えた。

以上